



2025年12月期 第2四半期決算説明会資料

株式会社サイフューズ (証券コード：4892)

2025年 8月 20日

本資料の取扱に関するお願い

- 本資料は、株式会社サイフーズ（以下「当社」といいます。）の投資家の皆様に対する情報提供のみを目的として当社が作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
- 投資のご検討にあたっては、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。
- 本資料は投資家の皆様へ当社をご理解いただくため、正確性・公平性を期し慎重に作成されたものでありますが、当社の有価証券への投資判断にあたって必要となるすべての情報が含まれているものではないこと、また、本資料に記載されている情報の真実性、正確性または完全性について当社として保証するものではないことにつきご了承ください。
- 本資料には、当社の現在の見通し、予想、計画等を含む将来に関する記述が含まれておりますが、新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、様々な要素によって変動する可能性があります。
- 本資料の使用または内容、情報等に関して生じたいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。
- 本資料の記載内容及び使用画像や写真・イラスト等について、当社の書面による事前の同意なしに、複製、複写、転載、転用等の二次利用を行うことを固く禁止します。

Agenda

01 2025年12月期第2四半期 サマリー

02 会社概要

03 開発進捗

04 2025年12月期第2四半期決算概要及び今後の予定

05 2025年12月期上半期 CYTOPICs

2025年12月期 第2四半期 サマリー

外部環境

- 「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」「スタートアップ育成5か年計画」（2022年に閣議決定）により、再生・細胞治療・遺伝子治療、創薬等の科学技術・イノベーションへの重点的投資、バイオテクノロジー領域への成長を促す政策により、本分野ならびに再生医療市場の成長に対する社会的期待は依然として高い。

開発

- **再生医療領域：末梢神経再生及び骨軟骨再生の3つのパイプライン開発について治験開始（2025年度開始予定）に向け、製造体制構築が進展**
- **創薬支援領域：「ヒト3Dミニ肝臓®」のマーケット拡大と、機能性細胞デバイス（FCD®）のラインナップ拡充に注力**
- **デバイス領域：治験開始に向けた製造環境整備など、再生医療等製品の生産技術開発を加速**

協業・提携

- **協業先パートナー企業との共同開発：将来の生産体制構築を見据えた協業を本格化**
 - ・PHC株式会社：3D 細胞製品の商業化へ向けた新生産技術を開発（3/19：共同プレスリリース）

情報発信

- **2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）への参加**
 - ・大阪ヘルスケアパビリオン「ミライの都市」ゾーンにて常設展示
 - ・厚生労働省が推進する情報発信事業のテーマに選定されバイオ3Dプリンタの展示及び講演

グローバル

- 北米、アジアを中心に共同研究先との研究開発が進展
- C2iTech Limited（香港）及び日立グローバルライフソリューションズ株式会社と協業に関する意向表明書を締結

事業採択

- 様々な外部専門機関や行政による豊富な事業採択実績
- 継続採択 7件：AMED事業 4件、東京都助成金 2件、福岡県助成金 1件

業績

- 売上高 29,420千円、営業利益△471,248千円、中間純利益 △402,521千円

2025年第2四半期の位置づけと今後の成長戦略

- 2025年第2四半期の位置づけ

成長期 ⇒ 拡大期 ⇒ 発展期

成長期

再生医療等製品の上市により収益が立ち上がるまで、バイオ3Dプリンタの販売や3D細胞製品の各種受託等、複数領域における事業収益を着実に積み上げ、将来の再生医療等製品の製造・販売へ向けた成長投資を進める計画。



■ 2025年第2四半期（成長期）における注力ポイント

- 開発面・事業面における着実な達成により、2025年度以降の成長戦略＝中長期成長の確度が上昇

✓ 次期、「拡大期」における事業展開上のキーイベントとなる再生医療等製品上市に向けた事業化活動が着実に進展

⇒ 第1号製品：末梢神経再生に関する再生医療等製品の製造販売承認取得の蓋然性が向上し、上市後の製品販売を前提とした収益構造を堅持

⇒ 「第1世代製品」と同時開発を進める「第2世代（同種（他家））製品」について、治験開始準備が順調に進捗

⇒ バイオ3Dプリンタの販売、3D細胞製品の各種受託等のベース収益の着実な積み上げ

⇒ これまでの開発面及び事業面における様々な成果達成を踏まえ、パイプラインバリュー（第2世代製品等）の拡大を軸とした成長戦略を積極的に推し進めると共に、将来のグローバル展開及び企業競争力の強化ならびに新市場への参入等に必要となる新たな技術開発や市場拡大へ向けた中長期的な成長投資を進めることを企図

Agenda

01 2025年12月期第2四半期サマリー

02 会社概要

03 開発進捗

04 2025年12月期第2四半期決算概要及び今後の予定

05 2025年12月期上半期 CYTOPICs

Our Vision

サイフューズは「**革新的な三次元細胞積層技術で医療の飛躍的な進歩に貢献する**」ことを企業理念とし、病気やケガで苦しむ患者さまに再生医療等製品という新たな治療法の選択肢をお届けすることで、新しい医療・社会の創出に貢献することを目指します。



サイフューズでは自社で開発したバイオ3Dプリンタを用いて立体的な組織・臓器を開発し、「再生医療等製品」として、患者さまへお届けすることを目指しております。

サイフューズが目指す再生医療等製品

- 国内では21製品が「再生医療等製品」として承認取得 (2025年7月末時点)
- 再生医療とは、細胞や組織を用いて、病気やケガなどにより機能を失った組織や臓器を修復・再生させる医療であり、患者さまに対して新たな治療法の選択肢を提供し、国民の健康増進に大きく寄与することが期待される新しい医療です。
- 本領域において、ヒト又は動物の細胞に培養等の加工を施したもので、身体の構造・機能の再建・修復・形成するものや疾病の治療・予防を目的として使用するものを総称して「再生医療等製品」といいます。



サイフューズは、まだ市場にない立体的な組織/臓器を「再生医療等製品」として実用化することを目指しております。

会社概要



社名	株式会社サイフューズ (Cyfuse Biomedical K.K.)
設立	2010年8月11日 *九州大学発ベンチャーとして創業
本社住所	東京都港区三田3-5-27 住友不動産東京三田サウスタワー
ラボ所在地	東京ラボ: 東京都港区三田3-5-27 住友不動産東京三田サウスタワー 福岡ラボ: 福岡県福岡市中央区天神1-10-20 天神ビジネスセンター
代表取締役	秋枝 静香
従業員	22 名 (2024年12月末時点)
事業内容	<ul style="list-style-type: none">● 再生医療事業:再生医療等製品・3D細胞製品の開発・販売● 創薬支援事業:創薬支援用3D組織の開発・販売、製造受託● デバイス事業:バイオ3Dプリンタ及び消耗品等の開発・販売

会社沿革

2010/08

株式会社サイフューズ設立
九州大学発ベンチャーとして創業



2018/08

積水化学工業株式会社と提携

2017/10

富士フイルム株式会社と提携

2013/04

東京大学内に東京ラボを開設

2015/02

澁谷工業株式会社と提携

2012/12

バイオ3Dプリンタ
「Regenova®」販売開始



2019/01

バイオ3Dプリンタ
「S-PIKE®」販売開始



2020/07

日立グローバルライフ
ソリューションズ株式会社と提携

◎日立グローバルライフソリューションズ株式会社

2020/06

岩谷産業株式会社と提携

Iwatani

2020/12

藤森工業株式会社と提携



2019/02

太陽ホールディングス株式会社と提携



2022

東京本社移転

福岡オフィスを新拠点へ移転
福岡地所株式会社と提携



2023/08

PHC株式会社と提携



2023/10

ヒト3Dミニ肝臓®
の販売開始

2022/12

東京証券取引所グロース市場へ上場



2021/12

株式会社メディパルホールディングスと提携



2024/03

末梢神経再生の
医師主導治験終了後、
社会実装に向けて協創
(京都大学/
太陽ファルマテック)

事業領域

バイオ3Dプリンティング技術をベースとする自社のプラットフォーム技術を用いて、
再生医療・創薬支援・デバイス開発の3領域において研究開発を推進

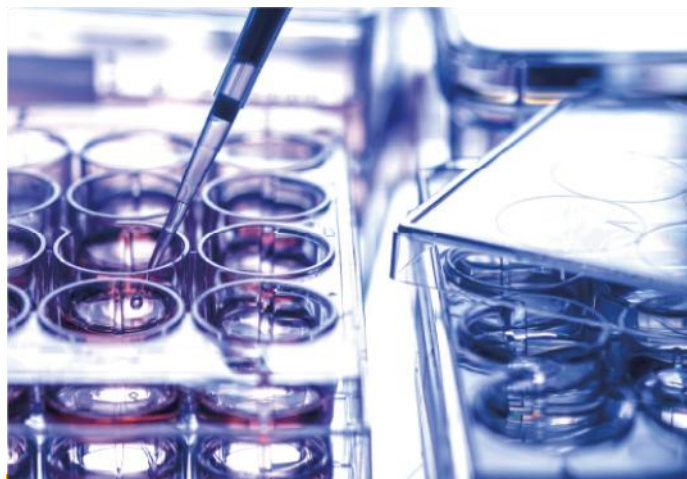


デバイス開発

バイオ3Dプリンタ及び
培養周辺機器の開発・販売

研究用／臨床用

培養周辺機器



創薬支援

画期的な
創薬スクリーニングツールの開発

毒性評価

薬効評価



再生医療

革新的な
三次元の再生医療等製品の開発

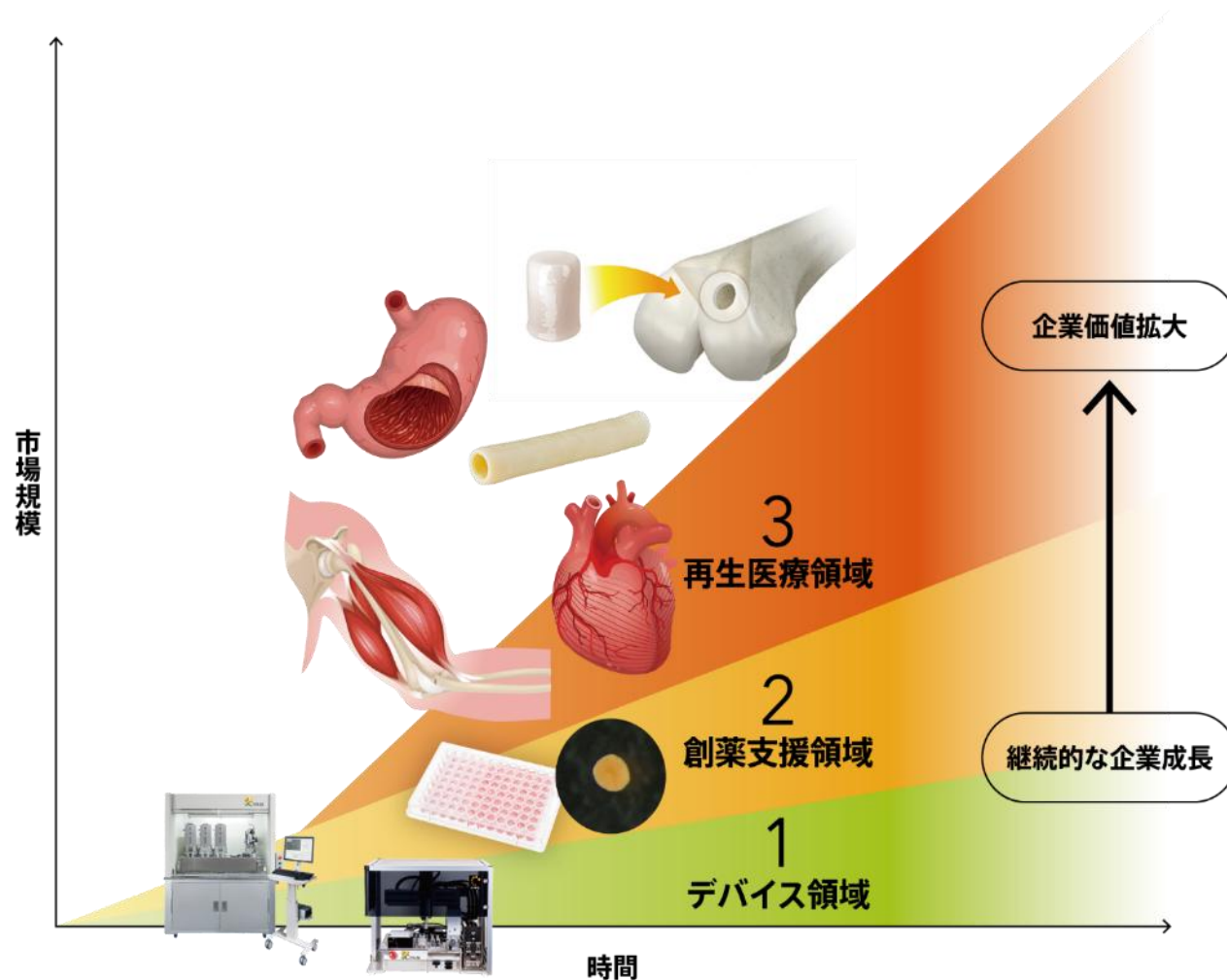
神経

骨軟骨

血管

サイフューズの事業戦略

- 革新的な「3D細胞製品」の実用化を主軸として戦略的・多面的に事業展開を推進



発展期

長期的には、複数の製品上市に加え、多領域での事業展開による収益安定化及び次世代パイプラインの上市ならびにパイプラインの適用拡大・領域拡大等による収益拡大を進め、再生・細胞医療分野での当社の基盤技術のポジション確立と共にグローバル展開を進めてまいります。

拡大期

中期的には、複数製品の上市による収益拡大により、次世代のパイプライン拡充へ向けた研究開発・技術開発を進めてまいります。

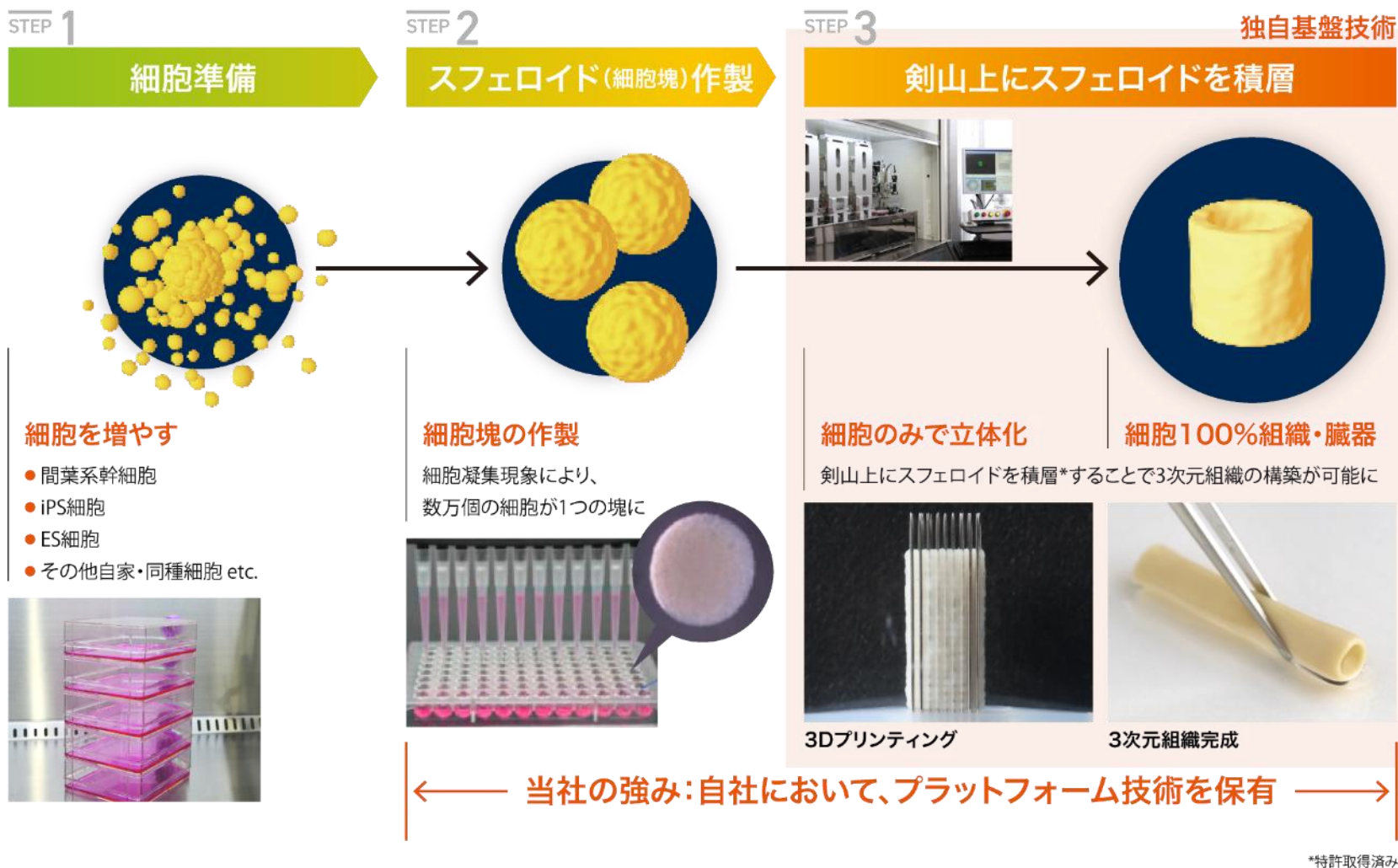
成長期

再生医療等製品の上市により収益が立ち上がるまでは、バイオ3Dプリンタの販売や3D細胞製品の各種受託等、複数領域における事業収益を着実に積み上げ、将来の再生医療等製品の製造・販売へ向けた成長投資を進めてまいります。

細胞から、希望をつくる。

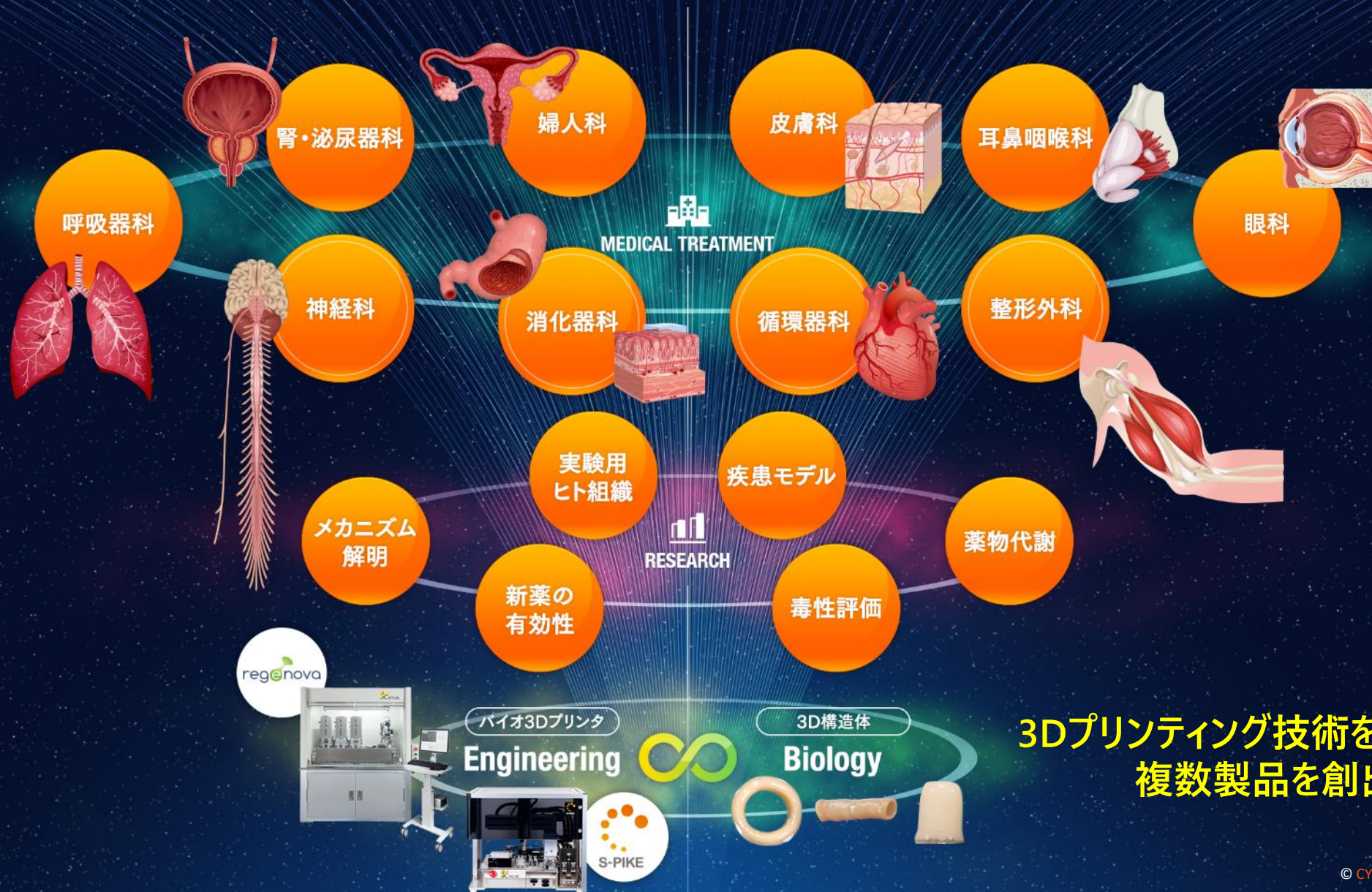
サイフューズのプラットフォーム技術

サイフューズのプラットフォーム技術



臨床試験の良好な結果を踏まえ、商業生産化に向け、協業パートナーと共に各プロセス開発を実施中

自社においてプラットフォーム技術を有することから多領域へ展開可能



3Dプリンティング技術を用いて
複数製品を創出

Agenda

01 2025年12月期第2四半期サマリー

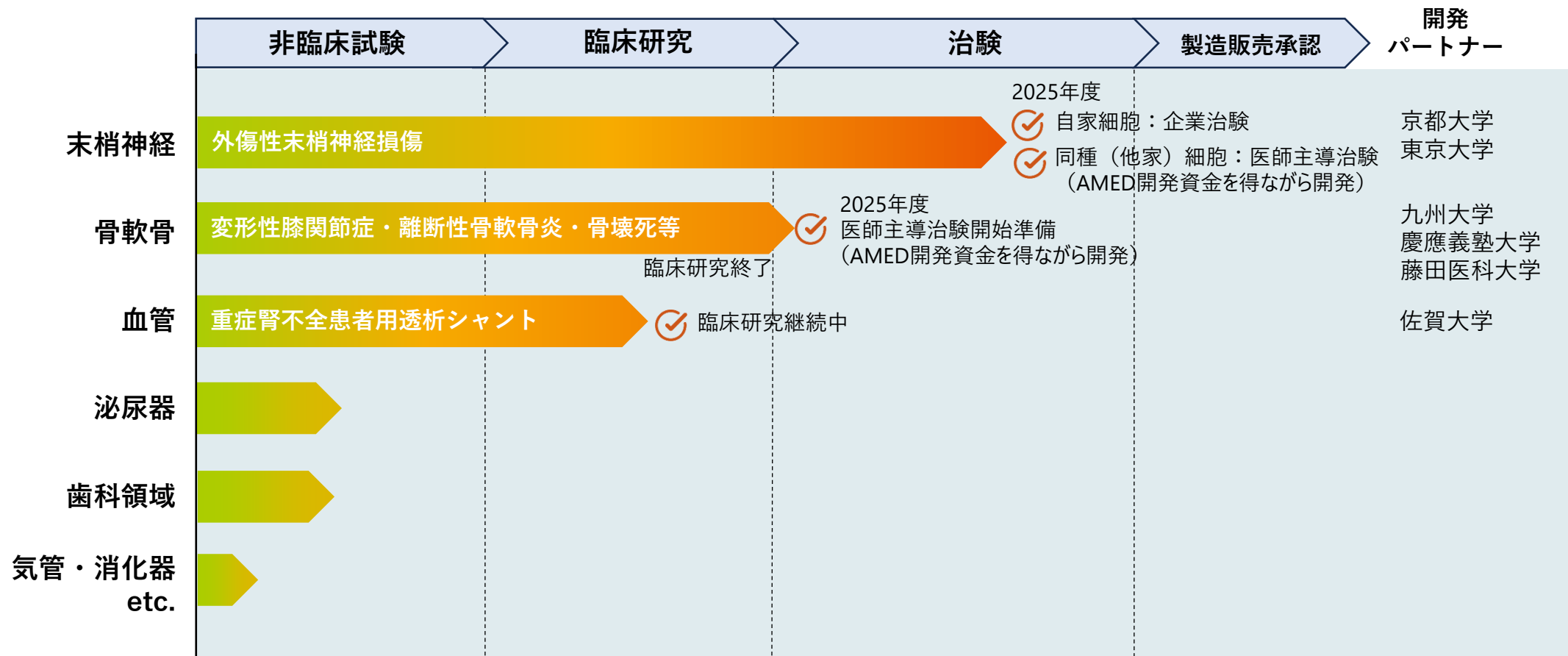
02 会社概要

03 開発進捗

04 2025年12月期第2四半期決算概要及び今後の予定

05 2025年12月期上半期 CYTOPICs

再生医療パイプラインの開発状況



■ 2025年12月期2Q開発サマリー

- 末梢神経再生：自家細胞PJ：太陽ホールディングス/太陽ファルマテック社と共に企業治験開始に向け準備
同種（他家）PJ：京都大学/東京大学と共に治験開始に向け製造施設及び治験体制を構築
- 骨軟骨再生：慶應義塾大学/藤田医科大学と共に、治験開始に向け産学官連携により製造施設及び治験体制を構築

再生医療領域：主要パイプラインについて

細胞のみから成る立体的な組織を開発し、病気やケガで失われた組織や臓器の機能を再生させることを目指す。

神経再生

末梢神経損傷等から四肢の機能の回復を必要とされる患者さま

「細胞製神経導管」を移植することで、断裂した神経を再生し、感覚神経や運動神経を再生



論文等の掲載実績

Commun Med, 2024 Jan.
J Artif Organs, 2022 Dec.
Scientific Reports, 2020 Jul.

骨軟骨再生

変形性膝関節症等により損傷が骨まで進行し、骨軟骨の再生を必要とされる患者さま

骨軟骨損傷部へ「細胞製骨軟骨」を移植することで骨と軟骨の両組織を同時に再生



Journal of Orthopaedic Surgery, 2014

血管再生

腎不全等により血液透析を必要とされる患者さま

人工血管の代わりに「小口径細胞製血管」を移植することで感染症のリスクや負担を軽減



Nature Communications, 2019 Aug.
PLOS One, 2015 Sep.

まずは上記3つのパイプラインについて「再生医療等製品」の承認取得を目指す

● 末梢神経再生

末梢神経を損傷・断裂をした患者さまへ

「細胞製神経導管」を移植することで、断裂した神経を再生し、感覚神経や運動神経を再生



自家細胞製品開発

- 医師主導治験の良好な結果を受け、企業治験開始に向け、準備を進展
協業パートナーである、京都大学、太陽ホールディングス及び太陽ファルマテックと共に再生医療等製品の製造承認取得に向けて産学官連携体制を強化

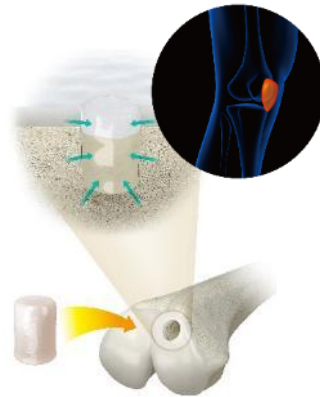
同種（他家）細胞製品開発

- AMED事業「末梢神経損傷に対する同種臍帯由来間葉系細胞を用いた三次元神経導管移植治療の開発」において京都大学、東京大学と共に同種細胞製品の開発を進展
- 同種末梢神経再生の非臨床POCに関する論文がアクセプト「Cell Transplant, 2025」

● 骨軟骨再生

変形性膝関節症等により、損傷が骨まで進行し、骨軟骨の再生を必要とされる患者さまへ

骨軟骨損傷部へ「細胞製骨軟骨」を移植することで骨と軟骨の両組織を同時に再生



- AMED事業「バイオ3Dプリンター技術を用いた膝関節特発性骨壊死に対する骨軟骨再生治療」（代表機関：慶應義塾大学）において、医師主導治験開始に向けた準備を進展
治験開始に向け、藤田医科大学及び慶應義塾大学病院と共に臨床・製造体制を構築
- 殿町・羽田エリアにおける産学官コンソーシアム「CReM TONOHANE」発足
日本発製品の再生医療の社会実装及びグローバル展開を目指す活動を促進



✓ 各治験開始に向け、製造施設構築をほぼ完了 = 順調に進捗

1st step : 各製造施設（クリーンルーム内）に臨床用バイオ3Dプリンタを搬入設置

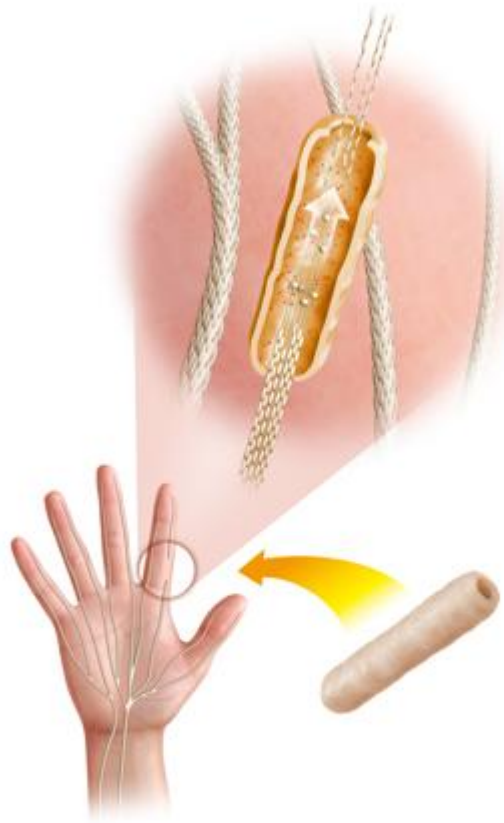
2nd step : 製造テストランを実施し、治験製品の製造について検証確認

3rd step : PMDA相談実施中

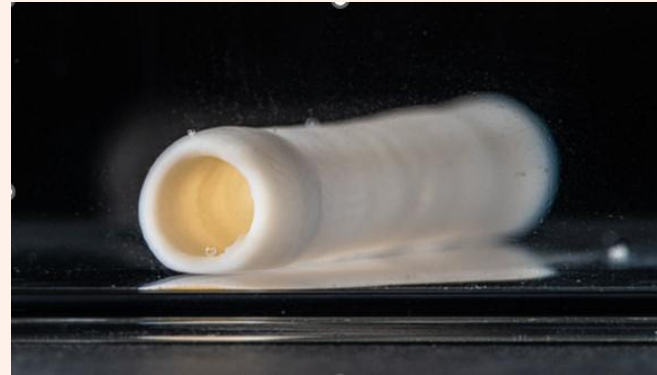
<https://crem-tonohane.jp/>

末梢神経再生概要

外傷性末梢神経損傷に対する
細胞製神経導管を開発

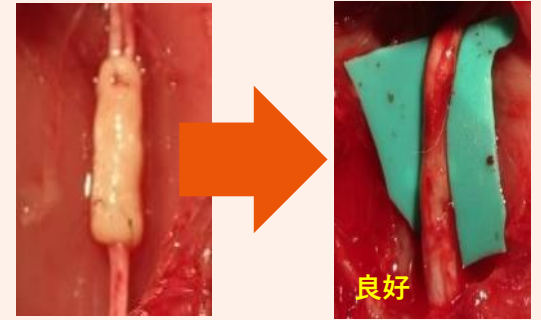


細胞製神経導管



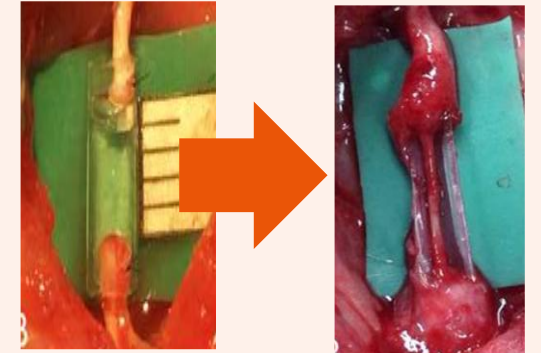
細胞のみから成る三次元導管。
人工材料を含まず、細胞成分（成長因子
等）が多く含まれているため、良好な神経
再生が見られる。

細胞製神経導管
を移植した場合



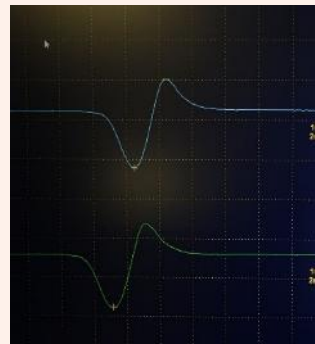
良好

人工物を
移植した場合

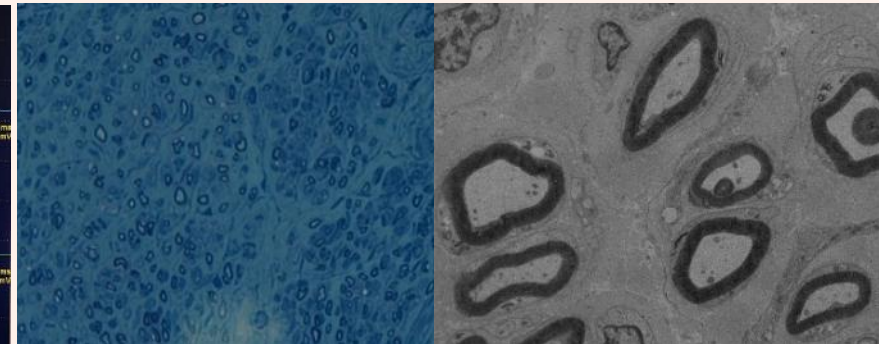


*ラットでの移植試験結果: Yurie et al, PLOS One Feb. 2017

電気生理学的評価



組織学的評価



Mitsuzawa et al, Cell Transplant, 2019

肉眼的にも機能的にも良好な神経再生が認められた

末梢神経再生の治験実施フロー

新 医師主導治験開始予定

同種（他家）移植

細胞バンク
利用

患者さまご自身の細胞



企業治験開始準備中

自家移植

移植

出荷



細胞を増やす



細胞塊



バイオ3Dプリンタ



3Dプリンティング



三次元神経導管



外傷性末梢神経損傷に対する
細胞製神経導管を開発

AMED委託事業「末梢神経損傷を対象とした三次元神経導管移植による安全性と有効性を検討する医師主導治験」の支援を受け治験実施

再生医療領域

● 末梢神経再生

末梢神経を損傷・断裂をした患者さまへ



- ✓ 将来の収益基盤の安定化に向け、再生医療等製品の製品開発が順調に進展
- ✓ 当社プラットフォーム技術が実現する、自家細胞製品と同種（他家）細胞製品の同時開発
当社独自の製品開発により、「患者さまの治療法の選択肢を増やす」ことが可能に

		第1世代製品 自家細胞を用いた末梢神経再生	第2世代製品 同種（他家）細胞を用いた末梢神経再生
ステータス		企業治験ステージ	医師主導治験ステージ
協業パートナー		太陽ホールディングス・太陽ファルマテック株式会社	京都大学・東京大学
特徴	メリット	自分の細胞を移植するため、拒絶反応等が極めて少ない	予め細胞が準備されているため、急性期にも適用可能となる（製造期間が短縮される）
	デメリット	自分の細胞を採取する必要あり	他人の細胞を移植するため、拒絶反応が生じる可能性あり
成果・進捗		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 医師主導治験の結果について、良好な結果を取得し、論文発表「Communications Medicine, Jan, 2024」 ✓ 日本再生医療学会総会、日本整形外科学会学術総会他で発表 ✓ 京都大学・太陽ホールディングス及び太陽ファルマテックと共に製造販売開始に向け、産学官連携体制を強化 ✓ 企業治験開始に向け、製造体制構築 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ AMED事業「末梢神経損傷に対する同種臍帯由来間葉系細胞を用いた三次元神経導管移植治療法の開発」において京都大学、東京大学と共に、同種細胞製品の開発を進める。治験製造設備・体制を構築 ✓ 非臨床試験において、有効性・安全性が確認され、POCを取得した論文がアクセプト「Cell Transplantation, 2025」

Original Article

Efficacy and safety of Bio 3D conduits composed of human umbilical cord-derived mesenchymal stromal cells: A proof-of-concept study in a canine ulnar nerve defect model

Kazuaki Fujita¹, Ryosuke Ikeguchi², Tomoki Aoyama³, Takashi Noguchi¹, Koichi Yoshimoto¹, Daichi Sakamoto¹, Terunobu Iwai¹, Tetsuya Miyamoto¹, Yudai Miyazaki⁴, Shizuka Akieda⁴, Tokiko Nagamura-Inoue⁵, Fumitaka Nagamura⁶, Koichi Nakayama⁷, and Shuichi Matsuda¹

Cell Transplantation
Volume 34: 1–14
© The Author(s) 2025
Article reuse guidelines:
sagepub.com/journals-permissions
DOI: 10.1177/09636897251361711
journals.sagepub.com/home/cll
Sage

非臨床POCを取得した論文が公開

自家細胞製品または同種（他家）細胞製品を選ぶことが可能に



同種細胞プロジェクト 自家細胞プロジェクト

治験開始に向け進展

末梢神経再生：進捗Topics

■ 自家細胞を用いたプロジェクト

✓ 製造販売承認取得後の生産体制構築に向けて開発を加速

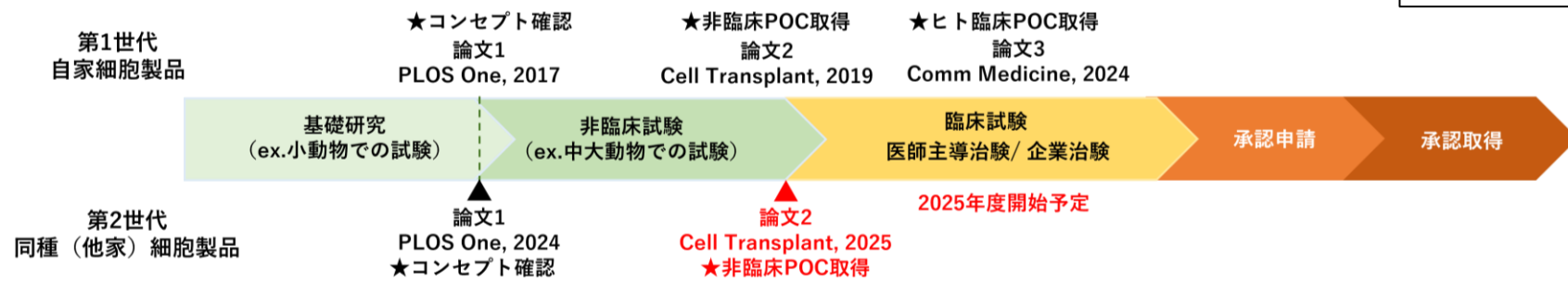
- 太陽ホールディングス株式会社・太陽ファルマテック株式会社、PHC株式会社他、協業パートナーと共に大量生産・商業生産に向け、製造体制構築

■ 同種（他家）細胞を用いたプロジェクト

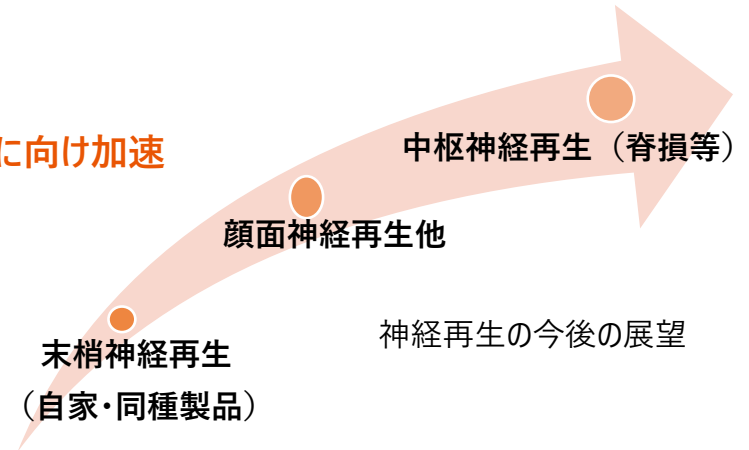
✓ 同種末梢神経再生の非臨床POCに関する論文がアクセプト「Cell Transplant, 2025」



2025年8月15日当社HPリリース



本成果を踏まえ、治験開始に向け加速
PMDA相談実施



- ✓ 製品ラインナップ拡大及び生産体制構築により、患者さまの治療法の選択肢を増やし、将来の収益基盤の拡充を図る
- ✓ 海外展開に向け、市場調査等本格開始（福岡県助成金事業に採択）

末梢神経再生市場

マーケット

患者数*1-3

外傷性末梢神経損傷患者数

US 約**140**万人

国内 約**6.8**万人～**17**万人

人工神経移植患者数

US 約**10**万人

国内 約**1.5**万人

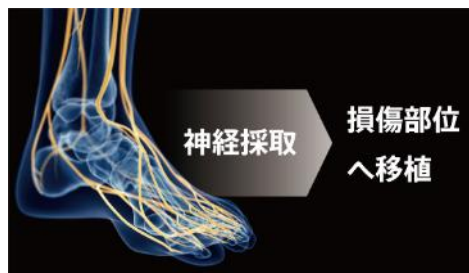
(参考)人工神経売上実績*4

US 約**125**億円
(axogen社 2022年売上推定)

国内 約**30～50**億円
(当社調査により推定)

既存の治療法

自家神経移植



健全な神経を採取し、損傷部位に移植
神経採取部位にしびれと痛みが残る

人工神経移植



人工神経を移植
十分な神経再生は得られていない
神経再生には、成長因子・血管・足場等の
様々な要素が必要であるが、**細胞成分が重要**であるとの報告がなされている。

末梢神経損傷に対する、新しい治療法・製品を開発することにより、新しい市場の獲得を狙う

*1 厚生労働省「令和2年医療施設(静態・動態)調査(確定数)・病院報告の概況」 *2 厚生労働省「初診外傷患者における調査結果」 *3 2009年日本リハビリテーション医学会「Traumatic Injury to Peripheral Nerves」

*4 axogen HP (<https://ir.axogeninc.com/>) ※市場規模の試算については、既存療法との効果比較による薬価の想定に基づき当社推定

骨・軟骨再生：概要

変形性膝関節症や離断性骨軟骨炎、骨壊死等を対象とする骨軟骨製品を開発



骨と軟骨を同時に再生させる新しい再生医療等製品を開発

- 細胞のみから成る3D構造体を骨軟骨欠損部に移植すると、骨と軟骨が同時に再生することを確認

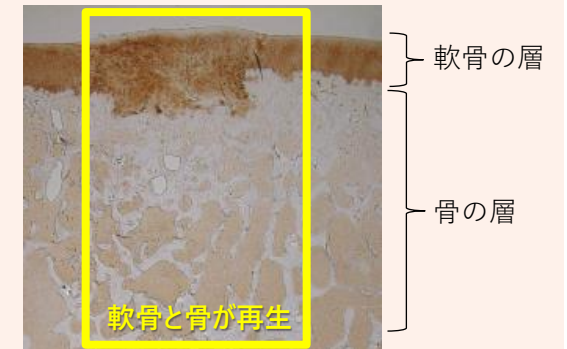
三次元骨軟骨構造体



細胞のみから成る三次元構造体

人工材料を含まず、細胞のみで構造体を作製。移植後、3D構造体が軟骨と骨に分化

3D構造体を移植した場合



何も移植しなかった場合欠損のまま



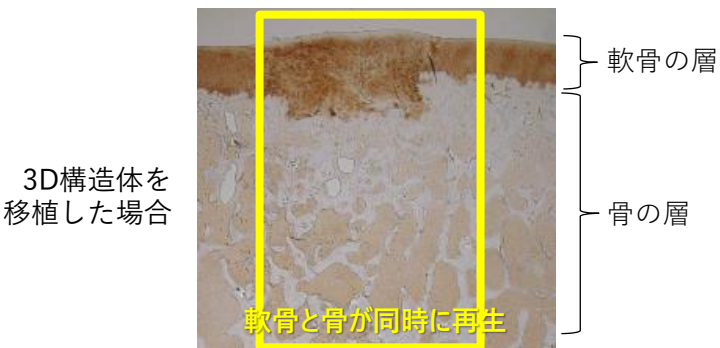
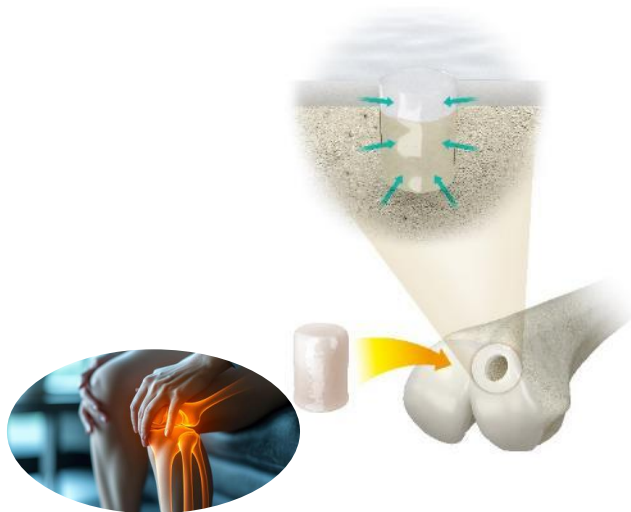
*ミニマウスでの移植写真

- 臨床研究において、安全性と有効性を確認
- 医師主導治験開始に向け、産学官連携体制構築中

- AMED橋渡し研究プログラム「バイオ3Dプリンター技術を用いた膝関節特発性骨壊死に対する骨軟骨再生治療」の支援を受け、慶應義塾大学と共に研究開発を実施

骨・軟骨再生：進捗Topics

変形性膝関節症等により、
損傷が骨まで進行し、
骨軟骨の再生を必要とされる
患者さまへ

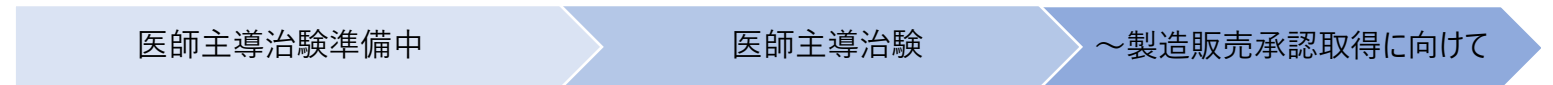


✓ 2025年度の医師主導治験開始に向けて、殿町・羽田エリアにおいて、産学官連携で臨床・製造体制構築中

- 新たに、AMED事業「バイオ3Dプリンター技術を用いた膝関節特発性骨壊死に対する骨軟骨再生治療」（代表機関：慶應義塾大学）に採択され、医師主導治験開始に向けた準備が加速
- 前事業年度に採択された経済産業省「令和4年度 第二次補正予算『再生・細胞医療・遺伝子治療の社会実装に向けた環境整備事業』」を活用し、神奈川県、藤田医科大学及び慶應義塾大学病院と共に骨軟骨再生の社会実装に向けて羽田・殿町エリアにおいて、基盤体制整備中
- 殿町・羽田エリアにおける産学官コンソーシアム「CReM TONOHANE」発足
日本発製品の再生医療の社会実装及びグローバル展開を目指す活動を促進



<https://crem-tonohane.jp/>



▲ 2025年度開始予定

臨床体制：慶應義塾大学病院、藤田医科大学病院と共に治験体制構築

製造体制：医師主導治験開始に向け、製造施設のクリーンルーム内にバイオ3Dプリンタを搬入設置完了

⇒ 製造プレラン実施中・PMDA相談実施

骨・軟骨再生市場

マーケット

軟骨のみを再生させる既存の製品はあるが、骨と軟骨を同時に再生できる製品は市場にない

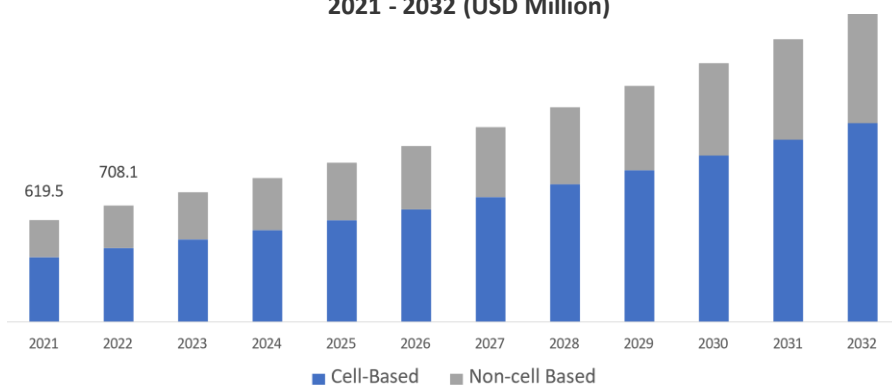
患者数*1

国内 潜在患者数：約**3,000**万人

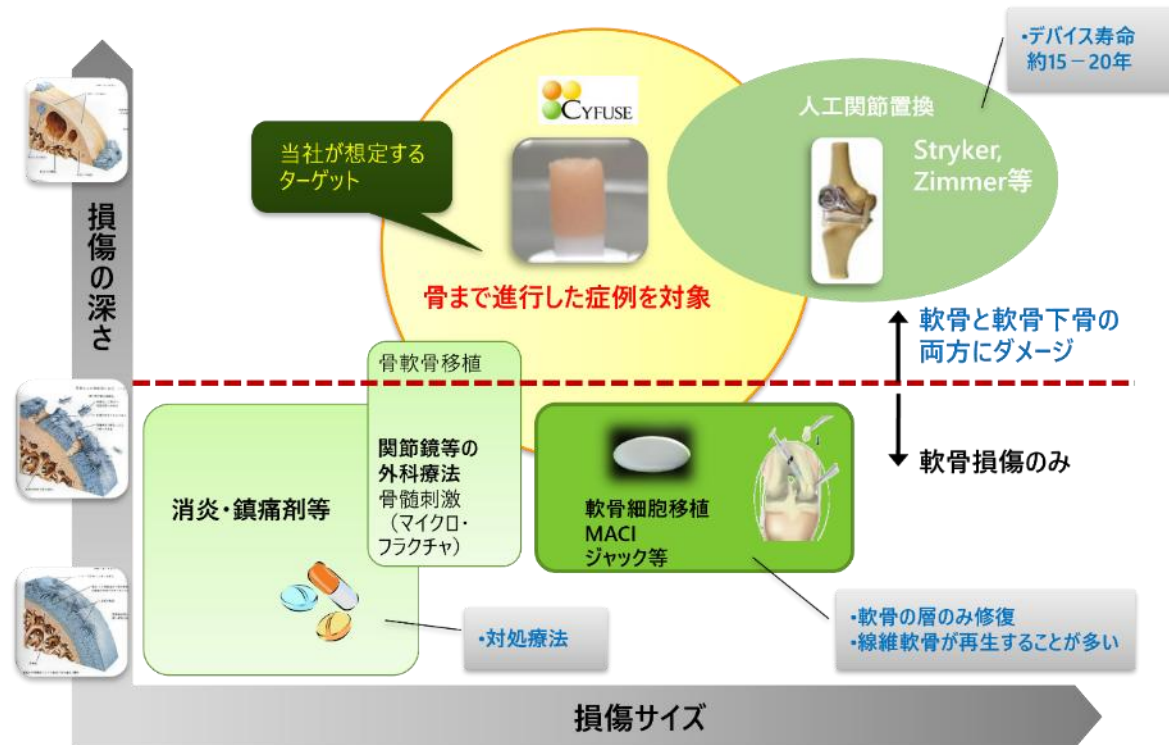
顕在患者数：約**1,000**万人

(参考)軟骨再生マーケット*2

Global Cartilage Repair Market size, By Modality, 2021 - 2032 (USD Million)



既存の対処療法・治療法

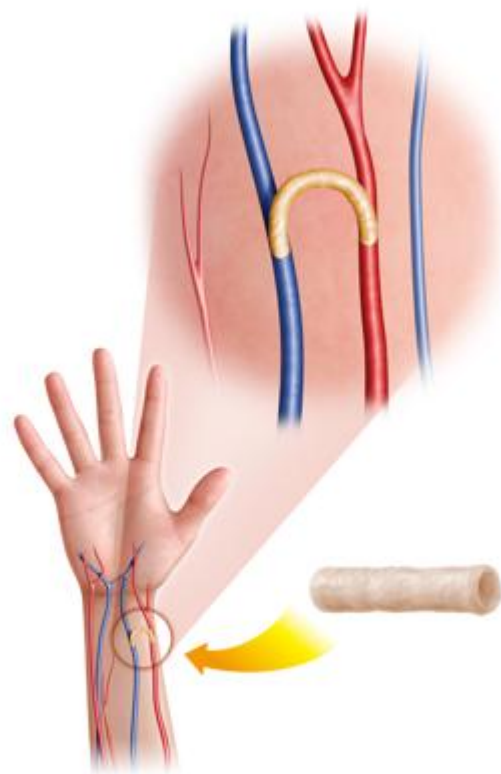


未だ市場にない、骨と軟骨を同時に再生させる製品の開発を目指す

*1 <https://www.jinko-kansetsu.com/pain/knee/oa.html> *2 <https://www.grandviewresearch.com/industry-analysis/cartilage-repair-regeneration-market>

血管再生：概要及び進捗

重症腎不全・透析患者さまを対象とする
シャント用細胞製人工血管を開発



患者さまご自身の細胞で血管を再生

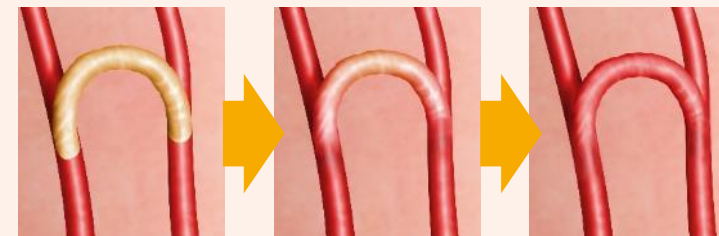
- 細胞のみから成る小口径人工血管を開発し、血管再生を目指す
- 患者さまご自身の細胞でチューブ状の構造体(細胞製人工血管)を作製し、腕の血管に移植

細胞製人工血管



細胞のみから成るチューブ状の構造体
人工材料を含まず、細胞のみで構造体を作製。
移植後に、自己の血管組織に置き換わることが
示唆された。

移植後、徐々に自己の血管組織に置き換わる



*ミニプタへの移植試験写真：Nature Communications, 2019 Aug

臨床研究実施中

*移植後のマネジメントプログラム策定中

血管再生市場

マーケット

透析患者さまの腕に移植する細胞製人工血管を開発

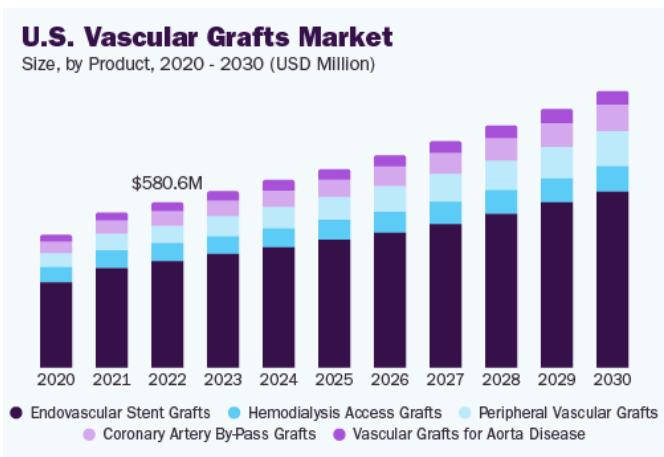
患者数*1

国内 糖尿病患者：約**330**万人

慢性透析患者：約**33**万人

人工血管(シャント)適用者(新規)：約**1.5**万人/年

(参考)血管マーケット*2



*1 日本透析医学会HP等参照 <https://docs.jsdt.or.jp/overview/> *2 <https://www.grandviewresearch.com/industry-analysis/vascular-graft-market>

既存の治療法

自己血管移植



自己の血管を採取し、移植

人工血管移植



e-PTFE製やポリウレタン製の人工血管が
用いられる

写真：TERUMO社HP

サイフューズの技術の優位性を活かした研究開発事例

対象臓器	当社での位置づけ	解決すべきアンメットニーズの例	対象疾患	国内患者数* (万人)
末梢神経	早期承認を目指した神経再生製品	<ul style="list-style-type: none"> 切断神経の再生 人工神経を凌駕する細胞製神経導管 	外傷性末梢神経損傷	1.5
骨/軟骨	基盤技術の先行アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> 手術ニーズの高い骨・軟骨同時再生 	変形性関節症	62.5
血管	3D技術を活かした分かり易い製品	<ul style="list-style-type: none"> 小口径、止血性、抗感染性 	透析シャント	1.5
肝臓	創薬	<ul style="list-style-type: none"> ハイコンテンツかつ長期の薬剤評価 疾患メカニズムの解明 	-	-
	臨床	<ul style="list-style-type: none"> 弱った肝機能補完 肝移植までのブリッジ 	移植適応 肝硬変	4.2
神経(中枢)	立体組織の強みが生きる難治性疾患への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> 脊髄損傷の欠損部位を神経幹細胞で満たしリハビリとの組み合わせで機能再建 	脊椎損傷	10.0
歯周組織	立体組織の強みが生きる難治性疾患への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> 治療修復困難な重度の歯周病による歯の喪失 急速な歯周組織破壊による歯槽骨減少ならびに歯の喪失 糖尿病や心血管系疾患の増悪因子、高齢者フレイルの原因 	重度歯周病 侵襲性歯周炎(難病)	400 1
泌尿器・子宮再生	より大きな組織再生への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> 膀胱/排尿機能再生 代用膀胱の置き換え(自己腸管、蓄尿バッグ等) 	重症間質性膀胱損傷	30.0
			子宮再生	-
心筋	立体組織の強みが生きる難治性疾患への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> 線維化して機能不全になった組織を置換し再生 	重症性心不全	79.2
小腸、大腸等消化管	内視鏡で移植可能な消化器への応用拡大	<ul style="list-style-type: none"> 細胞懸濁液及び細胞シートを凌駕する生着率、組織代替法 	潰瘍性大腸炎	13.3
			クローン病	3.4

* 厚生労働省の患者数調査結果他をもとに、適用患者数について当社調査から推定

再生医療領域

- 共同研究先と共にAMED事業他、助成金を獲得し、研究開発を加速
- 次世代パイプラインの探索・拡充にも注力

■ 事業採択一覧

- AMED事業「バイオ3Dプリンター技術を用いた膝関節特発性骨壊死に対する骨軟骨再生治療」（代表機関：慶應義塾大学）
- AMED事業「末梢神経損傷に対する同種臍帯由来間葉系幹細胞を用いた三次元神経導管移植治療法の開発」（代表機関：京都大学）
- AMED事業「バイオ3Dプリンターで作製した三次元移植組織を用いる革新的歯周再生療法の開発」（代表機関：広島大学）
- AMED事業「再生医療・遺伝子治療の産業化に向けた基盤技術開発事業」（QbDに基づく再生医療等製品製造の基盤開発事業）（代表機関：大阪大学）
- 経済産業省 成長型中小企業等研究開発支援事業（第2回）に分担機関として参画（代表機関：ハインツテック株式会社、早稲田大学）

■ 主な学会発表

- 第24回日本再生医療学会総会においてランチョンセミナー及びポスター発表（2025年3月20～22日）
- 第68回日本手外科学会学術集会において末梢神経再生に関する発表（2025年4月10日）
- 第98回日本整形外科学会学術総会において末梢神経再生に関する発表（2025年5月23日）
- TERMIS-EU Congress 2025において共同研究先と共に発表（2025年5月19～23日）

第24回日本再生医療学会総会
共催学術セミナー(ランチョン)

再生医療が創る未来

再生医療の歴史を振り返りつつ、これからの医療・社会はどのようなようになっていくのか、再生医療研究の第一人者である岡野教授を議長としてお迎えし、国内外で活躍の活躍中の先生と、臨床の第一線で活躍されている池口良輔先生に、「次世代医療の現状と今後の展望」を聴いていただきます。

当日は、最新の技術でライブサイエンス業界を牽引するPHCと最先端技術で新たな医療に貢献するサイファーズのコラボレーションにより期間から希望をお聞かせいたします！

日時 2025年3月20日(金) 12:00-12:50
共催 第24回日本再生医療学会総会 / 株式会社サイファーズ・PHC株式会社
会場 第8会場(ハシコホール) 4F G403

議長
慶応義塾大学 再生医療/3Dプリンター センター長、教授
岡野 栄之 先生

特別講演
大阪大学 大学院医学系研究科 教授
東京科学大学 総合研究院 教授
慶応義塾大学 先端医療イノベーションセンター 教授
シンシアの尾崎 隆 教授、*有馬 誠 先生、*丸山 謙 先生、*丸山 謙 先生、*丸山 謙 先生

武部 貴則 先生

LS-07-1
未来社会をデザインする～再生医療がもたらす新たな価値～

東京大学 工学部 教授
池口 良輔 先生

LS-07-2
バイオ3Dプリンタを用いた末梢神経再生の臨床試験

コーディネーター
株式会社サイファーズ 代表取締役
出口 恭子

コーディネーター
株式会社サイファーズ 代表取締役
秋枝 静香

事業領域

バイオ3Dプリンティング技術をベースとする自社のプラットフォーム技術を用いて、
再生医療・創薬支援・デバイス開発の3領域において研究開発を推進

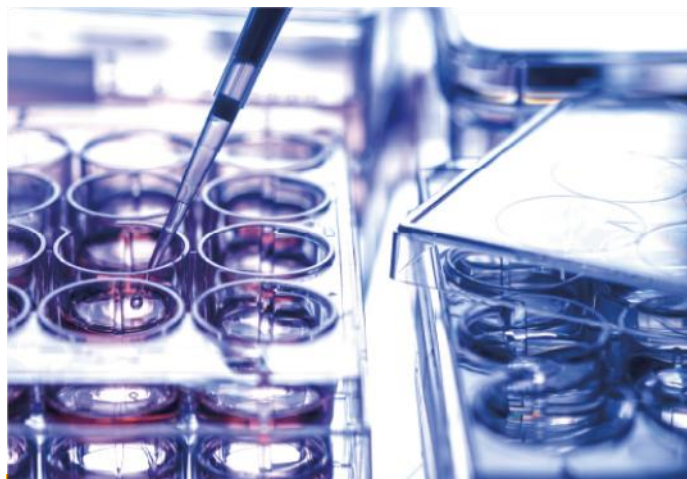


デバイス開発

バイオ3Dプリンタ及び
培養周辺機器の開発・販売

研究用／臨床用

培養周辺機器



創薬支援

画期的な
創薬スクリーニングツールの開発

毒性評価

薬効評価



再生医療

革新的な
三次元の再生医療等製品の開発

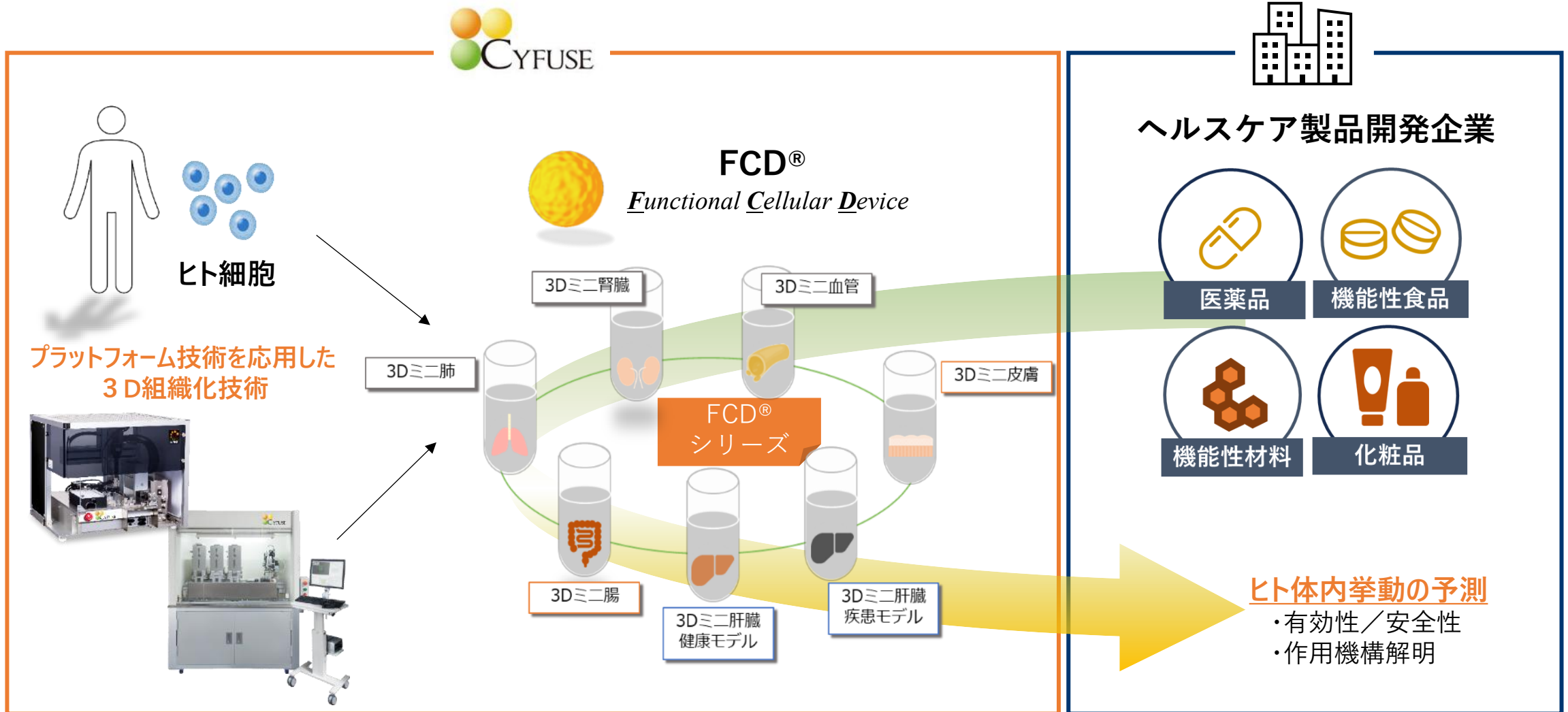
神経

骨軟骨

血管

創薬支援領域：開発段階から製品販売段階へ

- 機能性細胞デバイスFCD®の開発・販売



創薬支援領域

3D細胞製品『ヒト3Dミニ肝臓[®]』の販路・マーケット拡大

1. 極東製薬工業株式会社より販売を開始、販路の更なる拡大を達成
2. FCDラインナップ拡充：次期製品「脂肪肝炎モデル」の新技术確立を学会発表ならびにリリース
3. 食品分野の展示会に出展、マーケット拡大の取り組み開始
4. ヒト3Dミニ肝臓[®]の商標ならびに米国での特許権取得

1. 極東製薬工業から販売のリリース

2025年6月吉日

お客様各位

極東製薬工業株式会社
東京都中央区日本橋小舟町7-8

新製品発売のご案内

謹啓
時下 益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。さて、このたび株式会社サイフューズの『ヒト3Dミニ肝臓』を発売することになりましたので、ご案内申し上げます。今後とも弊社製品につきまして、引き続きのご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

1. 対象製品

統一商品コード No.	製品名	包装・内容	メーカー希望小売価格
551-28220-7	ヒト3Dミニ肝臓	SET	¥650,000

※JANコードは、統一商品コード No.の頭に「4987」を追加してください。/上記価格には、消費税は含まれておりません。

2. 製品概要

①



ヒト3Dミニ肝臓

ヒト3Dミニ肝臓の特徴

- ① ヒト肝臓由来細胞
- ② 長期アッセイに対応
- ③ 高い細胞代謝活性
- ④ 容易な取り扱い性

②



- 構成品 : ①96ウェルプレート…1枚(ヒト3Dミニ肝臓構造体60個を96ウェルプレートに搭載) ②培地…200mL
- 有効期間 : 30日
- 貯蔵方法 : ①37℃、5%CO₂、②2~8℃
- サイズ : ①D:85mm×W:127mm×H:18mm、②D:60mm×W:60mm×H:142mm
- 重量 : ①65g、②260g
- 使用目的 : 創薬における候補化合物の薬性評価用など

極東製薬工業様HP

2. FCD次期製品モデルのパンフレット

サイフューズの機能性細胞製品 FCD[®] ヒト3Dミニ肝臓

薬効 MOA

Disease Model
疾患モデル

2025年販売開始予定

健康モデル 脂肪肝 繊維化 肝硬変

サイフューズの「三次元組織化技術」によって生み出された「ヒト3Dミニ肝臓」シリーズ。健康モデルに加えて疾患モデルを新開発しました。ヒト肝臓で発症する脂肪性肝炎の病態を体外で再現しました。治療薬の薬効評価やメカニズム解明にお使いいただけます。

3. FOOMA JAPAN2025展示会に出展 (2025年6月ナラサキ産業共同出展)

食の研究開発が変わる! 「安全性・有効性」を開発段階で評価

ナラサキ産業株式会社

《3D臓器》食品開発の評価ツール

現在

バイオ3Dプリンタ

三菱電機データサイエンスツール (MELSOFT Mailab)

バイオ3Dプリンタで構築した3D臓器を用いて【新素材】が人へもたらす生体反応の異変・評価

試験管実験 動物実験

大容量的収集データを元に三菱電機AIソフトを用いて商品開発の最適なデータ推論・食品評価ツールの可能性。

サイフューズ X MITSUBISHI ELECTRIC

CYFUZE X MELSOFT

三次元加工で作製した臓器

食品企業の研究所

研究開発データ

三菱電機データサイエンスツール (MELSOFT Mailab)

安全性/有効性評価を予測

バイオ3Dプリンタ (三菱電機)

創薬支援領域：活動進捗

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の採択事業
「細胞版3Dプリンタ製肝臓構造体を用いた毒性評価モデルの事業化」の成果を実用化

■ 学会・展示会関係

- MPS実用化推進協議会 第2回学術シンポジウム(1/10@東京)に出展
- APPW2025 (第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会合同大会) (3/17-19@東京)にて次期製品の技術講演ならびに展示
- 世界最大級の食品製造総合展FOOMA JAPAN 2025にてナラサキ産業ブースに出展(6/10-13@東京)

■ 協業関係

- 極東製薬工業株式会社からヒト3Dミニ肝臓®の販売開始
- オリエンタル酵母工業株式会社と売買契約を締結
- 第5回シスメックス非臨床オンラインセミナーで講演、アンケート情報をもとに共同でマーケティング活動開始

FCD®製品「ヒト3Dミニ肝臓®」



第2回MPS実用化推進協議会に出展



APPW2025で次期製品の技術講演



創薬支援領域：取り巻く環境の変化

- 米国公的機関（FDA/NIH等）が創薬の開発プロセスに動物を使わない新方式採用を宣言
 - ヒト臓器モデルと計算機科学（AI、機械学習）を積極的活用
 - 新薬開発の期間とコスト削減、患者さまのニーズに応えたと共に医療費削減を企図

ヒト投与前の試験（非臨床試験） @ 創薬ベンチャー/製薬企業

ヒトへ投与（臨床試験）

承認・上市へ

従来方法

主に動物使用した開発を実施⇒欧米では徐々に禁止

動物実験



培養細胞



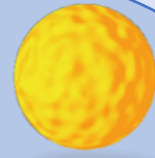
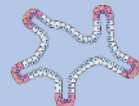
新方式

動物を使わない新しい評価方法
(NAMs: New approach methodologies)

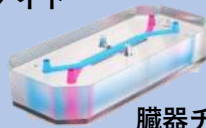
ヒト3D臓器モデル

計算機科学

オルガノイド



FCD

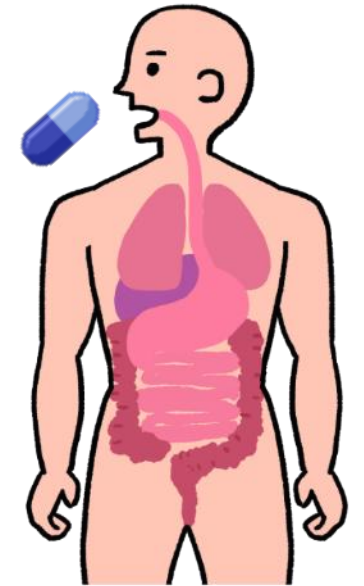


臓器チップ



世の中の流れ

- ・創薬効率化
- ・開発コスト削減
- ・動物愛護
- ・早期の治療薬提供
- ・医療費負担の軽減



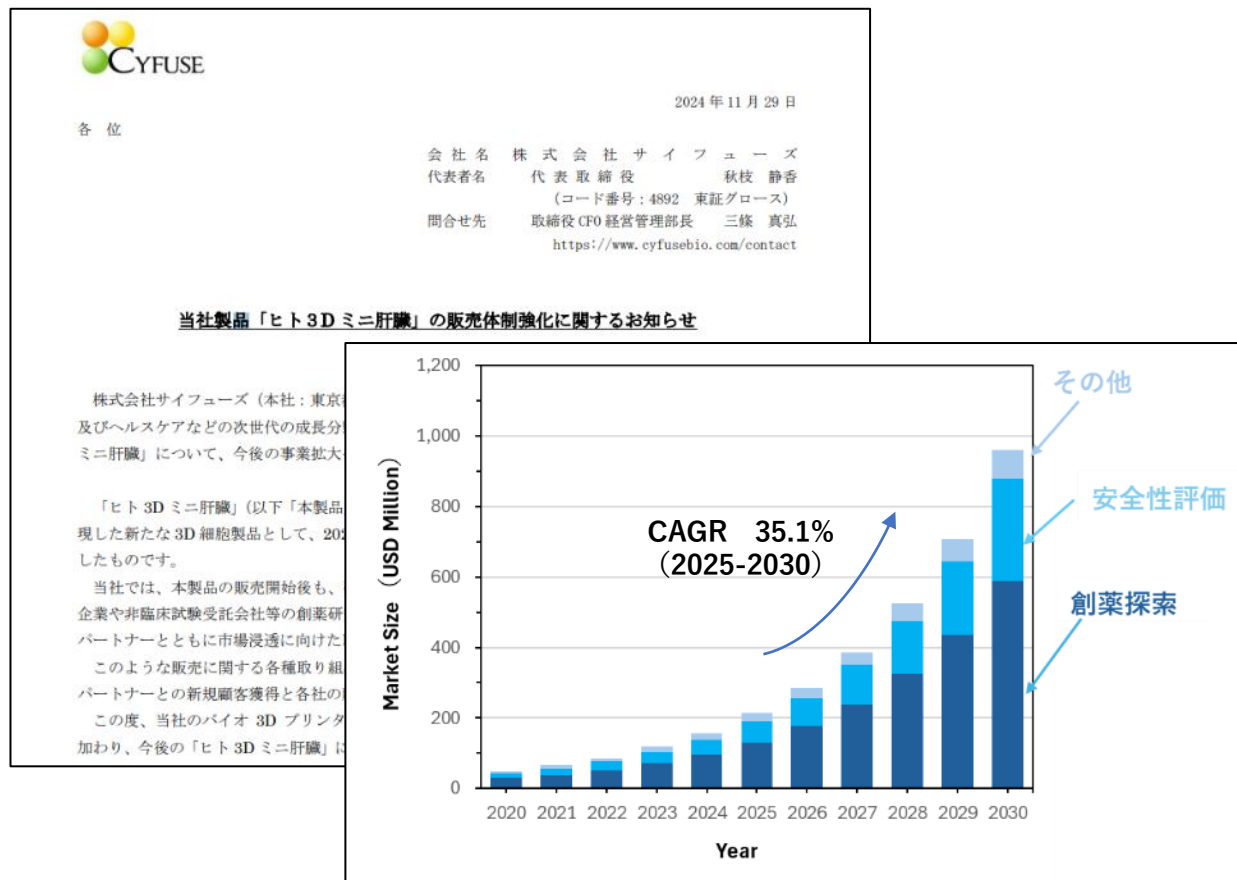
ヒト3D臓器モデル開発ニーズの高まり

⇒ FCD製品による市場開拓

創薬支援領域：今後の展開

販売・マーケット

- ヒト3Dミニ肝臓[®]について国内販売体制を強化
- 世界的にも臓器チップの市場は拡大基調、グローバルな販売を目指す

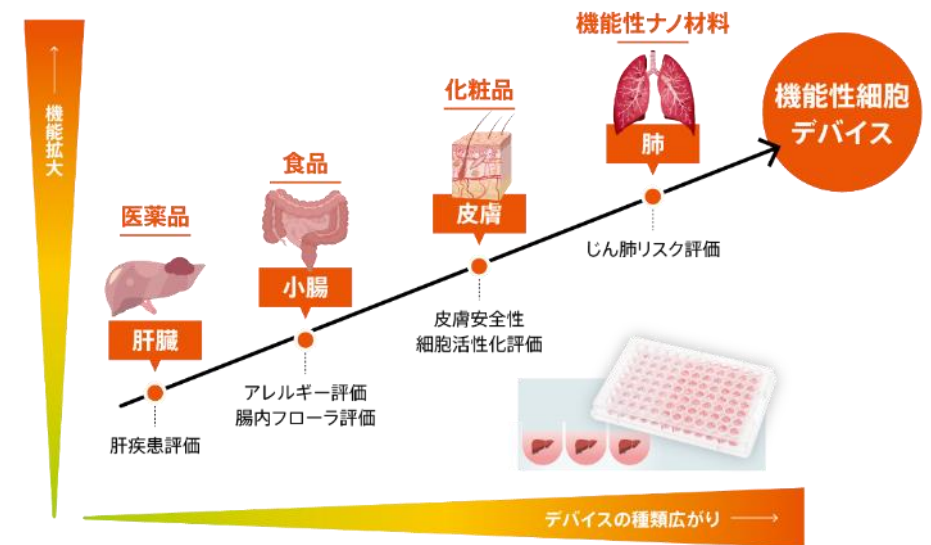


◆ 臓器チップのグローバル市場規模*

*出典： <https://www.grandviewresearch.com/horizon/outlook/organ-on-a-chip-market-size/global>

機能性細胞デバイス（FCD[®]）の拡張

- プラットフォーム技術を活かした多様な臓器への応用展開を目指す



- ✓ 様々な臓器のFCDラインナップ拡充によるユーザー拡大
- ✓ 医薬品・食品・化粧品などヘルスケア分野の製品開発企業向けに、開発支援ツールとしての3D細胞製品を提供

デバイス領域

再生医療等製品をはじめとする各種3D細胞製品の実用化に向けた生産技術開発を促進

- ✓ ものづくり・商業・サービス生産性向上促進にかかる補助事業を完了
- ✓ 生産性・品質の向上に向けた生産技術開発を加速
- ✓ 製造工程における各種システム化によるDXを促進



デバイス領域

- 研究開発/製造サポート及び商業生産に向けた開発を実施



日本精工株式会社との共同開発

- ✓ 商業用生産機開発
- ✓ 製造工程管理システム (DX対応)



生産性・品質向上に向けた技術開発 (生産技術/DX)

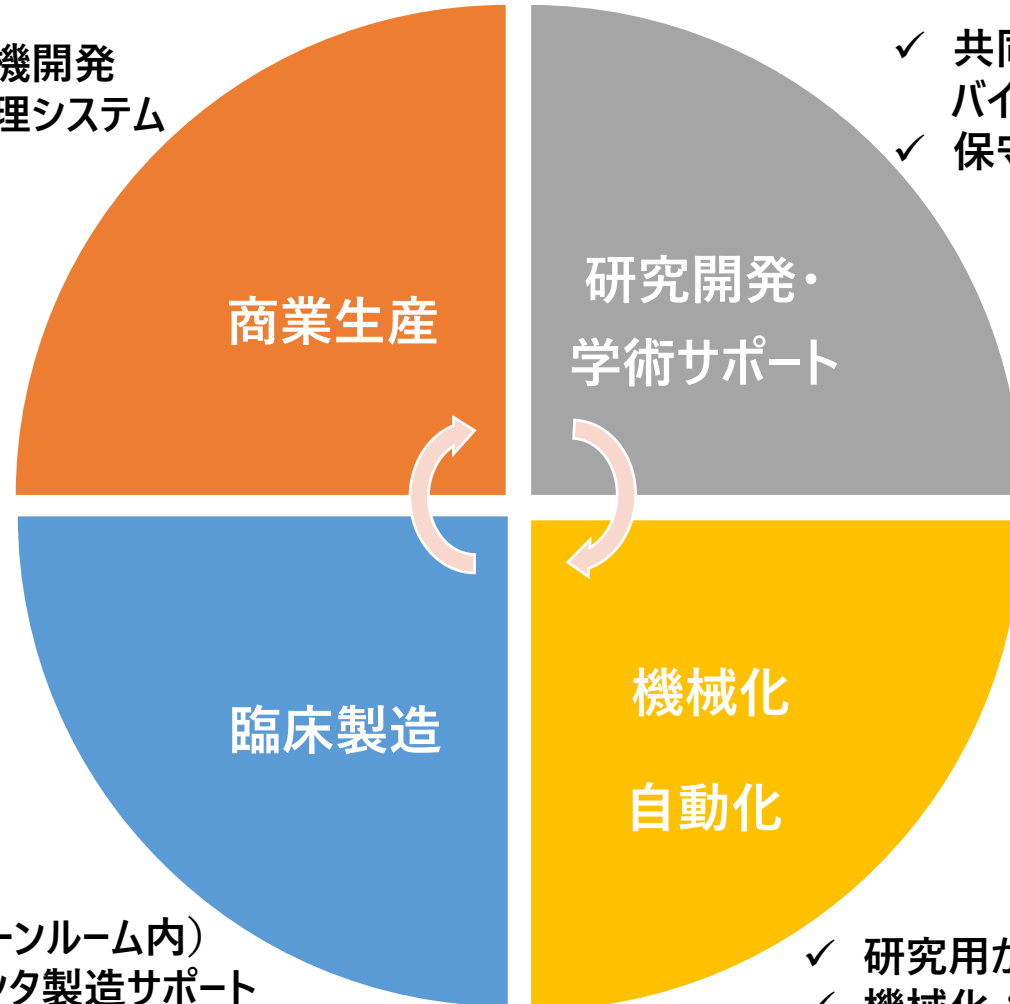
※2025年1月21日プレスリリース

「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金」事業



臨床用バイオ3Dプリンタの設置
製造サポート

- ✓ CPF内 (クリーンルーム内) バイオ3Dプリンタ製造サポート
- ✓ 消耗品類販売対応



- ✓ 共同研究先・研究機関への バイオ3Dプリンタ設置/トレーニング等
- ✓ 保守サービス等



臨床用培養ポンプ (販売開始予定)

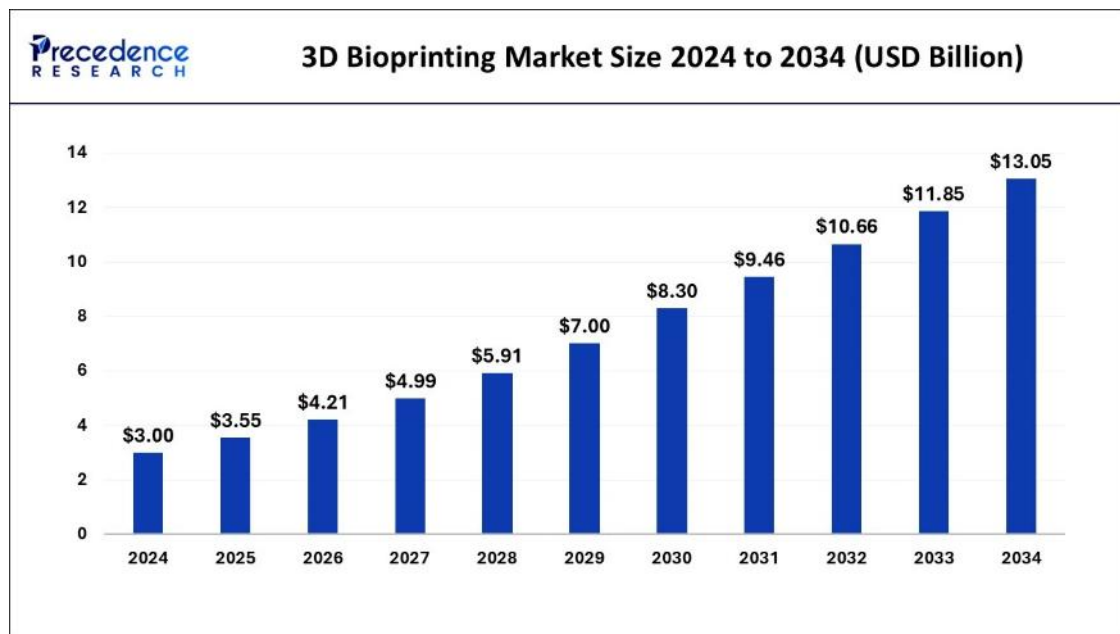
- ✓ 研究用から臨床向けへ機器カスタマイズ
- ✓ 機械化：手作業から装置作業へ向けて

デバイス領域：臨床製造から商業生産へ

マーケット

3Dバイオプリンティングの市場規模*

3Dバイオプリンティングの市場規模は、2030年には約83億米ドルと予測



今後の展開

商業化に向けた生産工程



技術応用・新技術開発

臨床製造工程

積層工程

バイオ3Dプリンタ

Regenova® / S-PIKE®



培養工程

装置・補助具

長尺化方法 / 超音波付与



自社のプラットフォーム技術をグローバルに展開し、市場におけるポジションを確立する。

提携企業との協業パートナーシップ

臓器を患者さまへお届けするまでの「バリューチェーン/サプライチェーンを構築」

- 再生医療等製品の実用化(製品化)においては、様々な企業との連携が重要
- 当社では、提携先パートナー企業と共に再生医療等製品の製造～輸送にかかる必要な体制を構築
- 再生医療の産業化を見据えた仕組みづくりに積極的に取り組んでいる

- 提携先パートナー企業例



提携先パートナー企業と共に製品製造及び生産体制を構築中

PHC株式会社との協業

- 再生医療製品の商業化へ向けた新生産技術開発
- 第24回日本再生医療学会総会においてPHC社と共同で成果発表及び共同プレスリリース



2025年3月19日

PHCとサイフーズ、3D細胞製品の商業化へ向けた新生産技術を開発 ～循環培養装置による3D細胞製品の品質向上と安定製造を目指す～

PHCホールディングス株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：出口 恭子）傘下のPHC株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：中村 伸朗、以下「PHC」と）、株式会社サイフーズ（本社：東京都港区、代表取締役：秋枝 静香、以下「サイフーズ」）は、再生・細胞医療分野（以下「本分野」）における商業化に向けた業務提携^(※1)及び共同研究に基づき、新たな生産技術^(※2)を開発いたしました。

本技術は、これまで技術的に難しいとされてきた「生きている細胞」かつ「立体的な細胞」の細胞品質をリアルタイムにモニタリングすることを可能にし、細胞製品の品質向上及び安定的な製造に繋がる画期的な新技術です。

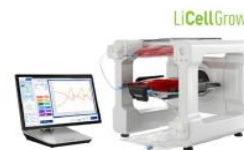
具体的には、サイフーズ独自の基盤技術「バイオ 3D プリンティング」を使用して製造する三次元細胞構造体と、PHCが現在開発中の自動培養装置「LiCellGrowTM」^(※3)に搭載されている In-Line モニタリング技術を組み合わせることで培養することにより、細胞製品の品質向上及び安定化を実現しました。

今後、本技術を実装した新たな循環培養装置を完成させることで、製造工程における重要なプロセスパラメータを特定し、工程内で細胞の状態をリアルタイムに把握するとともに、細胞の状態に応じて製造プロセスを最適化できる可能性があり、将来的には、サイフーズが開発を進める3D細胞製品のような立体的に培養した細胞製品の品質の向上と安定化に資することが期待されます。

なお、本件詳細については、2025年3月20日から3月22日までパシフィック横浜で開催される「第24回日本再生医療学会総会」において、三次元細胞構造体の品質向上に向けた循環培養装置の開発及び同装置を用いて培養したサイフーズの3D細胞製品の品質評価に関する研究成果を、それぞれポスター展示により発表いたします。

PHC及びサイフーズは、循環培養をはじめとする様々な生産技術の早期実用化に向けた共同研究をさらに進めるとともに、本件のような提携関係による共同研究の成果を踏まえて、成長産業市場である本分野におけるバリューチェーンを拡充し、サイフーズの革新的な再生医療等製品をはじめとする様々な研究開発・技術開発や新たな製品の創出等を推進します。

さらに、業務提携の拡大等、企業間連携をより一層強化し、パートナーシップに基づき本分野の成長発展を目指してまいります。



PHC：自動培養装置「LiCellGrowTM」



サイフーズ：バイオ 3D プリンタ「Regenova[®]」

※1：詳細につきましては、2023年8月2日付けプレスリリース「PHC株式会社と株式会社サイフーズが、再生・細胞医療分野での業務提携に関する基本合意を締結」をご覧ください。

PHC ホームページ：<https://www.phchd.com/jp/phc/news/2023/0802>

サイフーズホームページ：<https://www.cyfusebio.com/archives/1218>

※2：PHC の In-Line モニタリング技術の活用により、培地中のグルコースと乳酸濃度をリアルタイムで測定し、それらの濃度に応じて自動的に培地交換を行うことで培養環境の最適化を行います。これにより、サイフーズの3D細胞製品のような立体的な細胞構造体の培養プロセスにおいて、重要なパラメータの一つである培地のグルコース濃度を所定の濃度に培養制御することが可能となる技術です。

※3：研究用途の自動培養装置である本製品については、「再生医療 JAPAN 2024」(2024年10月開催)でプロトタイプを展示するなど、医療用途での実装を含め、新たな製品化へ向けた開発が進んでおります。

<https://www.phchd.com/jp/phc/news/2024/1001>

<PHC株式会社・バイオメディカ事業部について>

1969年に設立されたPHC株式会社は、グローバルヘルスケア企業として事業を展開するPHCホールディングス株式会社（コード番号：6523 東証プライム）の日本における事業子会社です。ライフサイエンス事業を担うバイオメディカ事業部では、事業ブランド「PHCbi」を掲げ、超低温フリーザーやCO₂インキュベーターをはじめとした研究・医療支援機器及びサービスの提供を通じて、約110の国と地域における研究者と医療従事者への支援に取り組んでいます。

www.phchd.com/jp/biomedical/about-phcbi

<PHCホールディングス株式会社について>

PHCホールディングス株式会社（証券コード：6523 東証プライム）は、健康を願うすべての人々に新たな価値を創造し、豊かな社会づくりに貢献することを経営理念に掲げるグローバルヘルスケア企業です。傘下にPHC株式会社やアセンシア ダイアベティスケアホールディングス、エプレディアホールディングス、株式会社LSIメディエンス、ウィーメックス株式会社、メディフォード株式会社などを置き、糖尿病マネジメント、ヘルスケアソリューション、診断・ライフサイエンスの事業領域において、開発、製造、販売、サービスを行っています。2023年度のグループ連結売上収益は3,539億円、世界125以上の国と地域のお客様に製品・サービスをお使いいただいております。PHCグループはPHCホールディングス株式会社とその事業子会社の総称です。

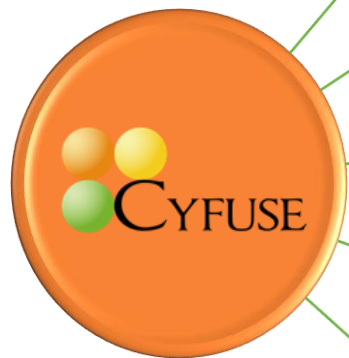
www.phchd.com/jp

第24回日本再生医療学会でのポスター発表



パイプライン開発に関する主な業務提携概況

パートナー企業との戦略的パートナーシップ強化に基づき、
革新的な再生医療等製品及び3D細胞製品の実用化に向けた産官学のエコシステムでの様々な取り組みが進展



太陽ホールディングス株式会社及び太陽ファルマテック株式会社との共同開発
再生医療等製品の商業生産体制構築へ向け、治験製品製造の準備を加速



岩谷産業株式会社との共同開発
3D細胞製品の凍結保存に関する共同開発
第23回日本再生医療学会総会にて共同研究成果を発表、共同プレスリリース



提供：岩谷産業株式会社



日本精工株式会社との共同開発
共同開発の結果、製品製造工程の自動化へ向けた新技術開発に成功



株式会社SCREENホールディングスとの共同開発
細胞・組織の品質評価に関する新技術のイノベーションを実現



提供：株式会社SCREENホールディングス



PHCホールディングス株式会社及びPHC株式会社との共同開発
3D細胞製品の商業化へ向けた新たな生産技術の開発を達成
第24回日本再生医療学会総会にて共同研究成果を発表、共同プレスリリース



提供：PHC株式会社

※プレスリリース等発表の順にて掲載

Agenda

01 2025年12月期第2四半期サマリー

02 会社概要

03 開発進捗

04 2025年12月期 第2四半期決算概要及び今後の予定

05 2025年12月期上半期 CYTOPICs

2025年12月期第2四半期 決算概要：業績ハイライト

2025年12月期第2四半期 業績概要

- ✓ 当社再生医療等製品の製品上市へ向けたパイプライン開発及び事業化活動が着実に進展
- ✓ 臨床開発への先行投資が継続しつつも、研究機関や企業等とのコラボレーション拡大による、開発受託や製品等デバイス関連売上が堅調
- ✓ 3D細胞製品「ヒト3Dミニ肝臓®」の販売体制強化により、市場浸透が加速。海外展開へ向けたマーケティング活動にも本格的に着手
- ✓ パイプラインバリュー（第2世代製品等）の拡大、将来のグローバル展開等へ向け、中長期的な成長投資（MSWTによる資金調達）を実施

損益計算書

(単位：千円)

勘定科目	2024年12月期 第2四半期	2025年12月期 第2四半期	増減額
売上高	18,042	29,420	11,378
売上原価	10,712	14,755	4,043
売上総利益	7,330	14,664	7,334
販管費合計	456,294	485,912	29,618
営業損失	△448,964	△471,248	△22,284
営業外収益	12,936	84,083	71,147
営業外費用	9,965	14,085	4,120
経常損失	△445,993	△401,250	44,743
税引前中間純損失	△445,993	△401,250	44,743
法人税等	1,220	1,271	51
中間純損失	△447,213	△402,521	44,692

2025年12月期業績予想 (単位：百万円)

勘定科目	2025年12月期 通期
売上高	302
営業損失	△1,219
経常損失	△1,140
当期純損失	△1,142

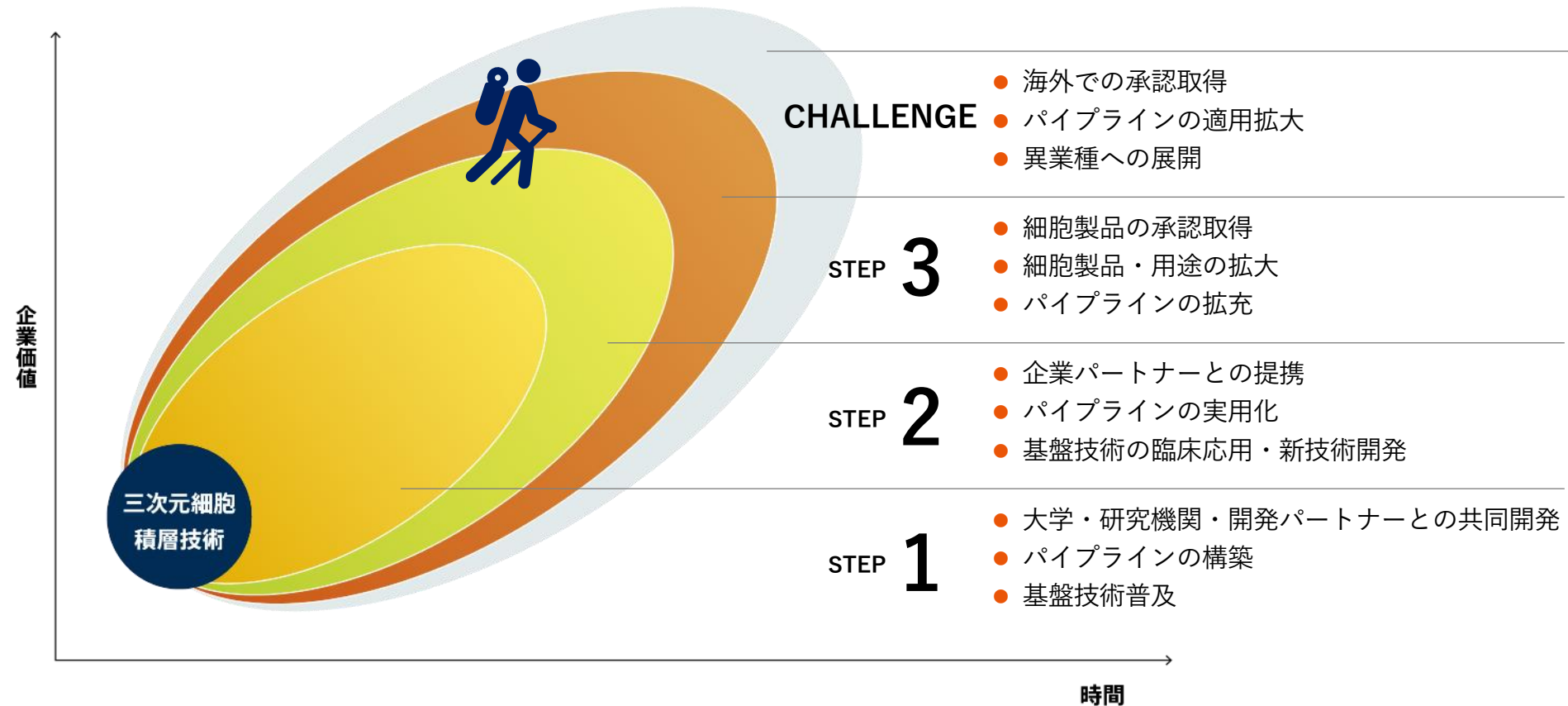
貸借対照表

(単位：千円)

勘定科目	2024年12月期	2025年12月期 第2四半期
【流動資産】	3,240,117	2,863,566
現金及び預金	3,052,570	2,698,671
【固定資産】	277,884	368,771
資産の部合計	3,518,001	3,232,337
【流動負債】	648,595	583,888
【固定負債】	327,000	318,000
負債の部合計	975,595	901,888
【株主資本】	2,493,095	2,244,687
純資産の部合計	2,542,406	2,330,448
負債及び純資産合計	3,518,001	3,232,337

今後の事業展開

「革新的な三次元細胞積層技術の実用化を通じて医療の飛躍的な進歩に貢献する」という企業理念に基づき、再生医療ベンチャーとして飛躍的な成長を目指します。



サイフューズならではの領域拡大・事業展開プラン

活動領域の拡大

国内での良好な成果を受け、
米国・欧州・アジア地域を
中心とした海外展開を進める

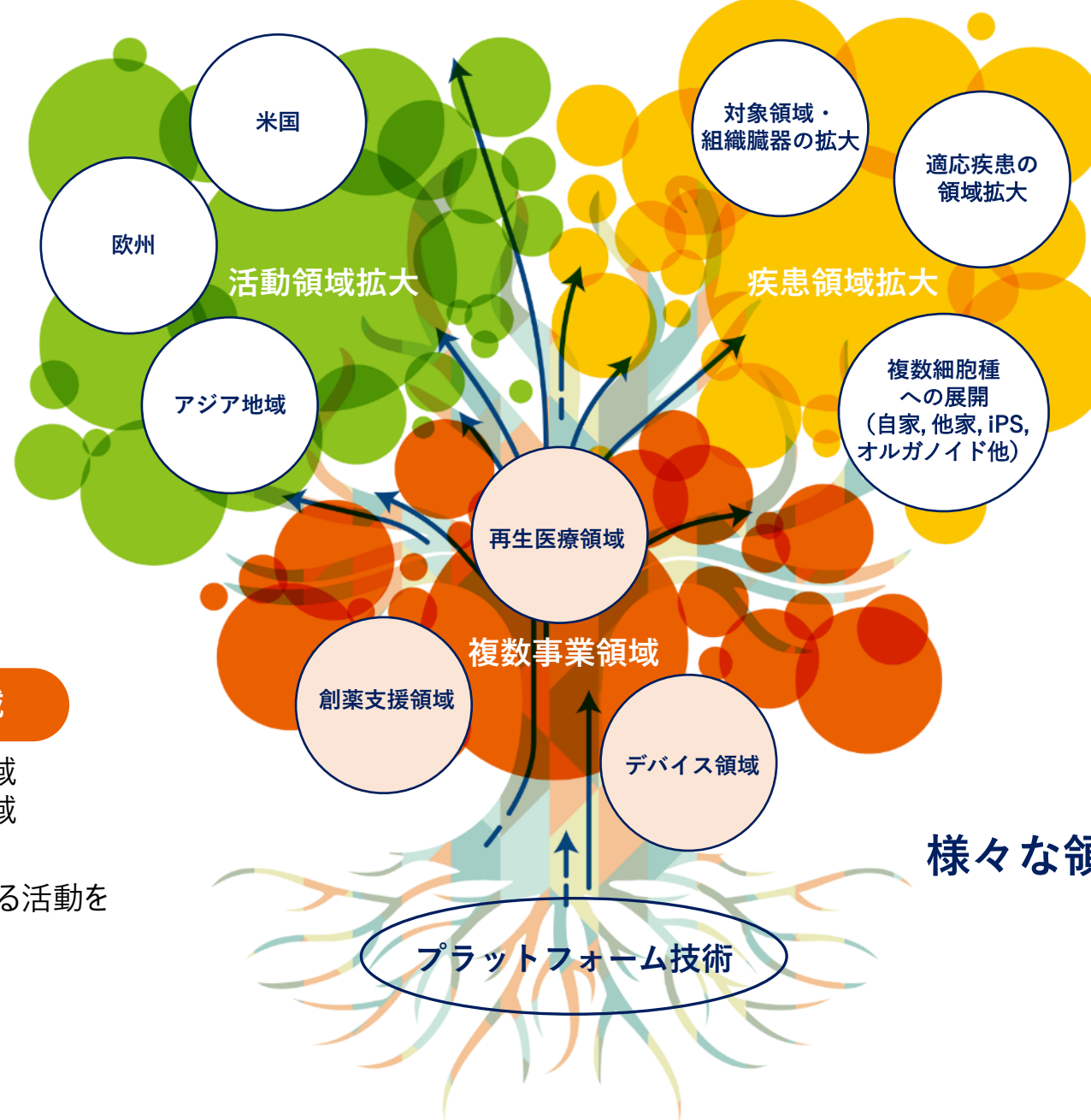
疾患領域の拡大

再生医療等製品の
1.対象領域の拡大
2.適応疾患の領域拡大
3.複数細胞種への展開
(自家,他家,iPS,オルガノイド他)
を進める

複数事業領域

1. 再生医療領域
2. 創薬支援領域
3. デバイス領域

各事業領域における活動を
さらに横展開



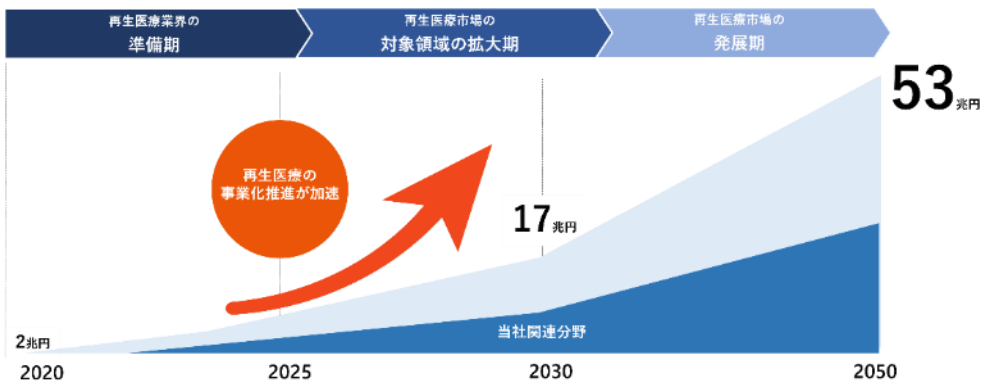
様々な領域で進む事業の拡大展開

サイフューズの成長戦略・将来像

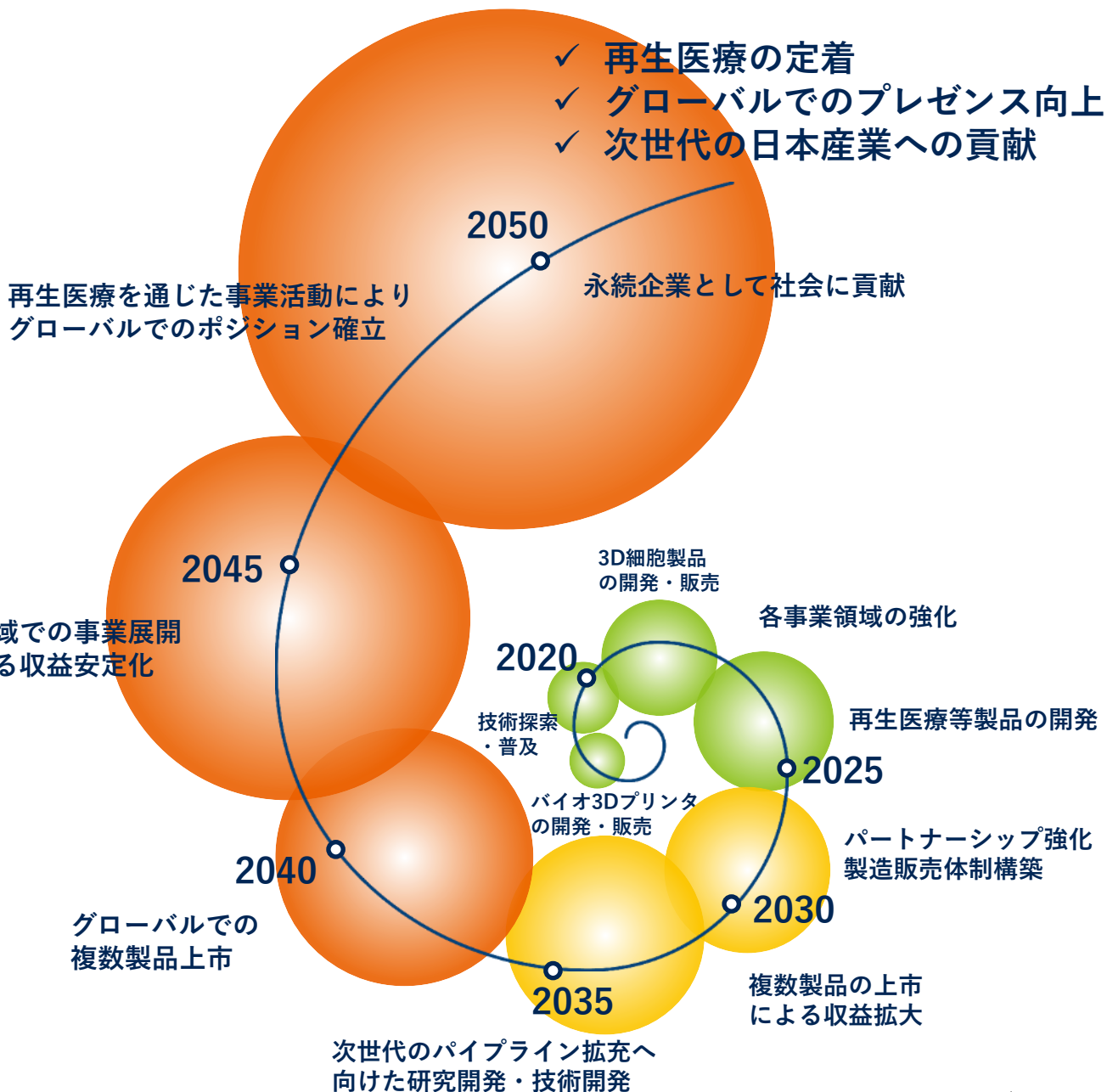
成長期～拡大期～発展期を超えて

世界の再生医療市場の成長*

再生医療の市場規模は、2050年には世界市場53兆円、国内市場では2兆円規模となり、大きな経済効果が期待されている。



* 経済産業省「再生医療の実用化・産業化に関する研究会の最終報告」より引用



Japan Quality

日本発から世界初へ



サイフューズの活動は世界中に広がっています。

国境を越え、全ての人たちの希望となりますように。

日本発の高品質な製品を全世界にお届けすることを目指します。

Agenda

01 2025年12月期第2四半期サマリー

02 会社概要

03 開発進捗

04 2025年12月期 第2四半期決算概要及び今後の予定

05 2025年12月期上半期 CYTOPICs

CYTOPICs (2025年 上半期トピックス)

PR・メディア戦略や社会貢献活動、ステークホルダーとの共創等、サイフーズの企業価値向上に向けた情報発信



プレスリリース

パートナー企業との新たな生産技術開発に加え、アジア地域への技術展開や3D細胞製品に関する新たな知的財産の取得など、当社の持つ先進的な技術とその社会実装に向けた取り組みが進展。

パートナー企業であるPHC社との共同プレスリリース



新たな知的財産の取得



海外企業との提携 (C2iTech, 日立GLS)



メディア

当社の研究開発や基盤技術が多くのメディアに取り上げられ、製品上市に向けた企業・製品の認知向上とプレゼンス強化が加速。

TBSテレビ
「情報7daysニュースキャスター」/「THE TIME,」



テレビ東京
「ブレイクスルー」/「WBS」



日本テレビ
「news zero」



イベント

再生・細胞医療の実用化・産業化促進に向け、業界展示会や講演活動での技術発信や、Cycampを通じた次世代への啓蒙活動など、幅広い層への情報提供を通じた社会理解の促進活動を拡大。

大阪・関西万博

大阪ヘルスケアパビリオン出展

厚労省ブースでの特別講演



Cycamp (子供向け教育活動)



業界展示会



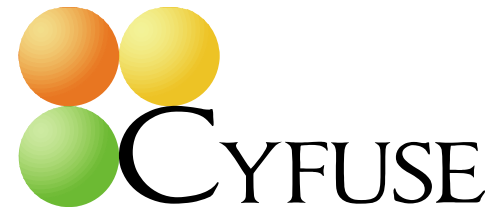
Our Mission

Create hope
from cells.

細胞から希望をつくる。

「バイオ3Dプリンティングの技術を用いて、細胞のみから成る立体的な組織・臓器を患者さまへお届けする」
「細胞(Cyto)が融合(Fusion)する」ことを社名とする、当社『サイフューズ(Cyfuse)』は、
2010年の創業以来「革新的な三次元細胞積層技術の実用化を通じて医療の飛躍的な進歩に貢献する」
という企業理念のもと、これまでにない新しい「再生医療等製品」「3D細胞製品」を
新しい治療法の選択肢として患者さまや医療機関にお届けすることで、
新しい医療・社会の創出を目指す再生医療ベンチャーです。

ご清聴ありがとうございました。
今後とも御支援の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



細胞から希望をつくる。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社サイフューズ 経営管理部

所在地：〒108-6301 東京都港区三田3-5-27

住友不動産東京三田サウスタワー

Email：ir@cyfusebm.com